

令和7年度 国語「現代の国語」シラバス

単位数	2	学科・学年・学級	普通科・理数科・1学年・A～H
教科書	高等学校 精選 現代の国語（第一学習社）	副教材等	新訂総合国語便覧（第一学習社） 入試頻出漢字＋現代文重要語彙TOP2500（いっずな書店） 現代文 思考の論理スイッチ 標準編2（浜島書店）

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の計画

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	・「話すこと・聞くこと」において、話し言葉の特徴を踏まえて話したりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。(A(1)ウ)	話して伝える	「スピーチで自分を伝える」	・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 ・他の人のスピーチを聞き取り、評価する方法を学ぶ。	・授業態度 ・発問評価・音読・学習課題の提出 ・小テスト ・定期考査 等
5	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(C(1)ア)	論理分析	『「間」の感覚』	・文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開について理解する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫する。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。	
6	・情報と情報を対比させながら展開する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。	人間と文化	『水の東西』	・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。	
7 8 9	・効果的に書くための方法を積極的に理解し、表現の工夫を身につけようとしている。	書いて伝える	書き方の基礎レッスン 「身近な製品の取扱説明書を作成する」	・表記・表現の基本ルールを理解する。 ・接続表現の種類や用法を理解する。 ・比喩などの表現技法を理解する。	
期末考査					
10	・「読むこと」において、文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めている。(C(1)イ)	社会と人間	「フェアな競争」	・作者が自説を述べるための論の進め方を捉え、「社会的共通資本」と「フェアな競争」との関係を押さえる。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・共同体の存立について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する方法を学ぶ。	・授業態度 ・発問評価・音読・学習課題の提出 ・小テスト ・定期考査 等
11	・「書くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、表現の仕方を工夫している。(B(1)ウ)	書いて伝える	「壘道」	・情報を的確に紹介する方法を理解する。 ・必要な情報や資料を収集・整理し、わかりやすい文を書くために活用する方法を理解する。	

12	・「読むこと」において、文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めている。(C(1)イ)	社会と人間	「ホンモノのおカネの作り方」	・具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する言語の性質を理解する。 ・文章の効果的な接続の仕方を理解する。 ・化学とのクロスカリキュラムを行い、文章に含まれている情報と化学の実験を相互に関係づけながら、内容を解釈する。	・授業態度 ・発問評価・音読・学習課題の提出 ・小テスト ・定期考査 等
1 2 3	・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。(2)イ)	科学と人間	『「文化」としての科学』	・筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理し、現状における科学と技術の関係を理解する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。 ・科学や技術について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する方法を学ぶ。	
期末考査					

3 評価の観点

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

国語はすべての教科の基本です。たゆまぬ努力をして、高みを目指しましょう。人は言葉があることによって自分の思いや考えを外に出すことができ、他者とコミュニケーションがとれます。高校1年次に言葉について意識するようにしましょう。

※年間を通して10回漢字テストを実施します。
※定期試験には「現代文 思考の論理スイッチ 標準編2(浜島書店)」から出題します。
※皆さんのニーズを見ながら、予定を変更することもあります。

令和7年度 国語「言語文化」シラバス

単位数	2	学科・学年・学級	普通科・理数科・1学年・A～H
教科書	高等学校 精選 言語文化（第一学習社）	副教材等	読んで見て覚える 重要古文単語315(桐原書店) 新訂総合国語便覧（第一学習社） 体系古典文法(数研出版) 体系漢文(数研出版) 動詞・形容詞・形容動詞・助動詞集中学習ワーク(尚文出版)

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の計画

※学習項目の◆は古典、◇は文学的文章を表す。

月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価材料
4	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。 ((2)ウ) ・積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合おうとしている	古文を読むために①② 説話	◆古文を読むために①② ◆『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	・授業態度 ・発問評価 ・音読・学習課題の提出 ・小テスト ・定期考査 等
5	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解を深めている。 ((2)ウ) ・「読むこと」において、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 (B(1)イ)	訓読に親しむ 故事	◆漢文を読むために ◆漁父之利	・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、助字のはたらきと意味を習得する。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、再読文字の種類と読み方を習得する。 ・文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	
中間考査					
6	・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 (B(1)イ)	小説(一)	◇羅生門(芥川龍之介)	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。	・授業態度 ・発問評価 ・音読・学習課題の提出 ・小テスト ・定期考査 等
7	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。 ((2)ウ)	古文を読むために④⑤	古文を読むために④⑤	・主として助動詞について、文語のきまりを理解する。	
8	「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。[A(1)オ]	随筆(二)	◆『徒然草』「冒頭」 「丹波に出雲といふ所あり」	・さまざまな文体を駆使した随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	
9					
期末考査					

10	・散文や韻文といった文章の種類が書かれた時代によってどのように変遷しているのかなどについて理解を深める。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。 (2ウ) ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 (B(1)イ)	文学史	◆文学史(古代～近世)	・散文や韻文といった文章の種類が書かれた時代によってどのように変遷しているのかなどについて理解を深める。 ・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・主として用言の活用について、文語のきまりを理解する。 ・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	・授業態度 ・発問評価・音読・学習課題の提出 ・小テスト ・定期考査 等
11	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。 (2ウ)	唐詩の世界	◆唐詩の世界 「江南の春」・「静夜思」・「月夜」 ・「八月十五日夜禁中独直对月憶元九」	・表現や技法(押韻や対句)に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・漢詩のきまりを理解する。	
12	・作品に表れている死生観を捉え、内容を解釈しようとしている。	小説(三)	◇城の崎にて(志賀直哉)	・三つの小動物の死と関連して心境が語られる構成を読み取り、作中に示された死生観について考えを深める。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。	
12	中間考査				
1	・散文や韻文といった文章の種類が書かれた時代によってどのように変遷しているのかなどについて理解を深める。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。 (2ウ)	文学史	◆文学史(近現代)	・散文や韻文といった文章の種類が書かれた時代によってどのように変遷しているのかなどについて理解を深める。 ・主として敬語について、文語のきまりを理解する。	・授業態度 ・発問評価・音読・学習課題の提出 ・小テスト ・定期考査 等
2	・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 (B(1)イ)	随筆(一)	◆『枕草子』『中納言参りたまひて』	・自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。 ・自由な文体の随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える	
3	・史伝の舞台となる時代背景を知るとともに、作中に描かれた蘭相如の考えや人物像を読み取ろうとしている。	思想	◆『十八史略』『完壁』	・史伝の舞台となる時代背景を知るとともに、作中に描かれた蘭相如の考えや人物像を読み取る。 ・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	
期末考査					

3 評価の観点

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

国語はすべての教科の基本です。たゆまぬ努力をして、高みを目指しましょう。人は言葉があることによって自分の思いや考えを外に出すことができ、他者とコミュニケーションがとれます。高校1年次に言葉について意識するようにしましょう。 ※年間を通して10回古文単語テストを実施します。 ※皆さんのニーズを見ながら、予定を変更することもあります。
--

単位数	2	学科・学年・学級	1 年次
教科書	新地理総合（帝国書院），新詳高等地図（帝国書院）	副教材等	新詳地理資料COMPLETE（帝国書院）

1 学習の到達目標

- ① 地理に関わる諸事象に関して，世界の生活文化の多様性や，防災，地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに，地図や地理情報システムなどを用いて，調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。
- ② 地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域などに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養います。
- ③ 地理に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土に対する愛情，世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めます。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム	1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 ・身の回りの地図 ・地形図の利用 ・統計地図 ・GISの活用	・地球上の位置の違いが生活に与える影響や時差が生活とどのように結び付いているか理解する。 ・地図にはさまざまな種類が存在することについて理解する。 ・主題図と一般図の表現方法や用途を理解する。統計地図の種類と使い分けを理解する。 ・地理情報システム(GIS)のしくみと活用法を理解する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全4回）
	5	第2章 結び付きを深める現代世界	1節 現代世界の国家と領域・国家と日本の位置，領域 2節 グローバル化する世界 ・国家の結びつきと貿易 ・交通・通信・観光 中間考査	・世界の多様な国家を通し領域や国境について理解する。日本の位置や領域の特徴について理解する。 ・世界の国々の結びつきの歴史的変化と現代の貿易の特徴や課題を理解する。 ・世界の交通網通信網の発達と利用について理解する。観光がもたらす利益や課題について理解する。	
	6	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解	序説 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 ・大地形，変動帯，安定地域 ・河川地形，海岸地形 ・氷河地形，乾燥地形，カルスト地形	・世界各地の多様な生活文化を考察する方法について理解する。 ・地球上の多様な地形と人々と地形の関わりについて理解する。世界各地での人々の生活を理解する。 ・大地形，変動帯，安定地域の地形は，人々の生活にどのような影響を与えているか理解する。 ・氷河地形や乾燥地形，カルスト地形は，人々の生活にどのような影響を与えているか理解する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全4回）
	7		2節 世界の気候と人々の生活 ・気温，降水，大気大循環 ・植生と気候区分 ・オセアニア ・東南アジア	・地域差のある気温や降水，風などの気候要素は人々の生活にどのように関わっているか理解する。 ・気候が人々に与える影響を考察する。気候区分と自然環境，社会環境との関わりを理解する。 ・オセアニア地域の自然環境を理解し，どのような生活文化や産業が育まれてきたのか探究する。 ・東南アジア地域の自然環境を理解し，どのような生活文化や産業が育まれてきたのか探究する。	
	9		3節 世界の言語・宗教と人々の生活 ・中央アジア，西アジア，北アフリカ ・インド 期末考査	・言語や宗教は，人々の生活にどのような影響を与えているのか理解を深める。 ・中央，西アジア，北アフリカの言語宗教を理解し，生活文化や産業について探究する。 ・インドを中心に南アジア地域の言語宗教を理解し，生活文化や産業について探究する。	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2章 地球的課題と国際協力	4節 歴史的背景と人々の生活 ・ラテンアメリカ・サハラ以南アフリカ・ロシア	・歴史を積み重ね形成された社会的環境が人々の生活文化に与える影響について理解する。 ・各地域の生活文化と歴史的背景について理解する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全4回）
	11		5節 世界の産業と人々の生活 ・農業と工業 ・アメリカ合衆国 ・東アジア ・ヨーロッパ	・農業、工業の発展と産業のグローバル化は、人々の生活にどのような影響を与えてきたか理解する。 ・アメリカ合衆国の知識産業や鉱工業、農業は、世界にどのような影響を与えているか理解する。 ・東アジアの工業発展と世界の関わりを理解する。 ・ヨーロッパの産業が世界に与える影響を理解する。	
	12		1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源エネルギー問題 中間考査	・地球的課題の背景を学び、解決に向けてどのような取り組みが行われているか理解する。 ・地球環境問題の種類と原因を理解する。 ・資源・エネルギー問題の種類と原因を理解する。	
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	第3部 持続可能な地域づくり	4節 人口問題 5節 食料問題	・人口問題の種類と原因を理解する。 ・食料問題の種類と原因を理解する。	行動観察 ワークシート分析 小テスト 定期考査（全4回）
	2		6節 都市・居住問題 1節 日本の自然環境	・都市・居住問題の種類と原因を理解する。 ・日本の自然環境と災害の関わりを理解する。	
	3		2節 地震津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え	・地震津波被害の地域差と防災について理解する。 ・火山の恩恵と災害を学び地域性を理解する。 ・気象災害の地域差と防災について理解する。 ・自然災害への理解を深め防災について理解する。	
	3		第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望 期末考査	・現地調査の準備と行動について学び、調査結果をまとめて発表する際の工夫について理解する。	

3 評価の観点

知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めている。

4 評価の方法

授業中の行動観察、作成したワークシートの分析、小テスト、定期考査（4回）をもとに「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点により評価する。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

地理は暗記ではなく、地理的なものの見方や考え方を身につけ、分析や表現の技能を習得することが本当の学力になります。また、時事問題にも関心をもち、ニュースや新聞をよく読みましょう。その時に、わからない地名・用語などは地図帳などで調べてみましょう。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 1年 A～G組
教科書	詳述歴史総合（実教出版）	副教材等	明解 歴史総合図説シンフォニア四訂版（帝国書院）

1 学習の到達目標

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1編 近代化と私たち	*ヨーロッパの海外進出	○大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流、アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い、18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を理解する。	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
		第1章 近代化への胎動	*18世紀の東アジア		
	5	第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成	*産業革命 *アメリカ独立革命 *フランス革命とナポレオン *ウィーン体制とその崩壊	○産業革命の拡大が、世界や日本に与えた変化について理解する。 ○市民革命が生み出した社会の変化について理解する。	
			中間考査	○ウィーン体制の崩壊がもたらした世界への影響をさまざまな国の動きから考察する。	
	6	第3章 アジアの変容と日本の近代化	*イスラーム世界の改革 *アヘン戦争 *明治維新	○19世紀のアジア諸地域では、どのような背景のもとにどのような政治的变化が生じたのかについて理解する。	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
	7	第4章 帝国主義の時代	*帝国主義政策 *日清・日露戦争 *韓国併合	○帝国主義とは何かを理解する。また、帝国主義国の植民地獲得競争がどのように繰り返されたのかについて理解する。	
	9				
			期末考査		
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	*第一次世界大戦とロシア革命 *ヴェルサイユ体制とワシントン体制	○第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響を理解する。 ○第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。	○授業への興味・関心 ○発言 ○課題の取り組み ○定期考査
		第5章 第一次世界大戦と大衆社会			
	11	第6章 経済危機と第二次世界大戦	*世界恐慌とニューディール政策 *ファシズムの台頭と第二次世界大戦	○経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目し各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを理解する。 ○第二次世界大戦がどのように始まり、どのように拡大したか、また、日中戦争やアジア太平洋戦争とどのように結び付いたのかについて理解する。	
	12		*戦争末期の社会と日本の敗戦	○アジア太平洋戦争下の人々の生活はどのようなものだったのか、また、戦争がどのように展開していく中で日本が降伏したのかについて理解する。	
			中間考査		

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
1	第7章 冷戦と植民地化	* 国際連合と戦後世界 * 冷戦対立と推移と米ソ両陣営の動揺	○ 連合国による枢軸国の占領政策と日本の戦後改革について理解する。 ○ 冷戦の展開と第三世界の国々の経済政策の特徴などから国際政治の変容を理解する。	○ 授業への興味・関心 ○ 発言 ○ 課題の取り組み ○ 定期考査
2	第8章 多極化する世界	* 緊張緩和から冷戦の終結へ	○ 冷戦の終結と東アジアの分断状況について理解する。	
3	第9章 グローバル化と現代世界	* 地域紛争と世界経済 * グローバルな認識へ	○ 冷戦終結後、世界各地で起きた地域紛争や、平和を維持するために行われたさまざまな活動について理解する。	
		期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	近代以降のヨーロッパや日本における政治，ヨーロッパ各地域間や日本と欧米諸国の関係などを基に，世界と日本の政治と社会の関連性を理解している。
思考・判断・表現	近代以降の欧米諸国が日本に与えた影響などに着目して，主題を設定し，ヨーロッパ諸国とその他の地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，近代以降の政治活動の特徴，ヨーロッパ各地域間の関係，日本と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し，表現している。
主体的に学習に取り組む態度	近代以降のヨーロッパの動きと日本との関連に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求，解決しようとしている。

4 評価の方法

知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価の観点に従い，総合的に評価する。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

“歴史の舞台に登場する人物達がその時何を思い，どう行動したか。歴史とは，それらの人物を通して自身を顧みる鏡である。”とある学者の発言の引用です。歴史の学習を，ただ単に過去の出来事を覚えるだけ，と捕らえるのではなく，過去からの時間のつながりの中の「いま」を生きる我々に与えられた課題を見出し，追究しようとする主体的・積極的な姿勢で取り組んで欲しいと思います。

令和7年度 数学科 「数学Ⅰ」シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	普通科 1年 A～G組
教科書	数学Ⅰ（数研出版）	副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅰ＋A

1 学習の到達目標

数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1章 数と式 第1節 式の計算	1 多項式 2 多項式の加法と減法 および乗法 3 因数分解	- 基本的な計算を行う。 - 因数分解の公式を利用する。また，式の一部を1つの文字のようにみなしたり，1つの文字について整理するなど，見通しを持って能率よく計算を行う。 - 自然数，整数，有理数，無理数の意味や実数について理解する。また，絶対値の定義をもとに，絶対値記号を含む式の計算を行う。 - 不等式の意味を理解し，数量の間の大小関係を不等式で表す。	- 授業中の態度（主） - 質問に対する応答（主・思・知） - 授業中の演習（主・思・知） - 小テスト（主・思・知） - 課題（主・思・知）
		第2節 実数	4 実数 5 根号を含む式の計算		
	5	第3節 1次不等式	6 1次不等式 7 1次不等式の利用		
		第2章 集合と論証	1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明	- 集合と要素，集合の表し方，部分集合について学び，図表示などを用いて集合の包含関係，共通部分と和集合，空集合について理解する。また，集合に関する記号の意味を理解し，適切に使う。 - 命題の逆，裏，対偶について理解し，対偶を利用した証明方法や背理法による証明法を学び，論理的な思考力を身に付ける。	- 定期考査（主・思・知） - 提出物（主）
			中間考査		
	6	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 3 2次関数の最大と最小 4 2次関数の決定	2次関数の最大・最小について理解を深め，定義域に応じて，最大値や最小値を求める。また，具体的な問題の解決に活用する。	- 授業中の態度（主） - 質問に対する応答（主・思・知） - 授業中の演習（主・思・知） - 小テスト（主・思・知） - 課題（主・思・知）
		第2節 2次方程式と2次不等式	5 2次方程式 6 グラフと2次方程式 7 グラフと2次不等式	- 因数分解や解の公式を用いて，2次方程式の解を求める。 2次方程式の実数解の個数と判別式の符号との関係を理解する。 2次関数のグラフとx軸の共有点と判別式の符号との関係を理解する。 2次関数のグラフを利用し，2次不等式の解を求める。また，グラフを活用することのよさを認識する。	
	7				
	9				
			期末考査		- 定期考査（主・思・知） - 提出物（主）

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第4章 図形と計量 第1節 三角比	1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張	・正弦、余弦、正接の意味を理解し 30° 、 45° 、 60° の正弦、余弦、正接の値を求め、活用する。また、三角比の相互関係について理解する。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知）
	11	第2節 三角形への応用	4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	・三角形の辺と角の間の基本的な関係として正弦定理を理解し、活用する。 ・条件に応じて正弦定理や余弦定理を活用し、三角形の面積を求める。 ・三角比を空間図形の計量に活用する。	・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	12		中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	第5章 データの分析	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位範囲	・データの分布の特徴を表す値として、平均値をもとにした分散、標準偏差を理解し、それを求める。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知）
	2		4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間の関係 6 仮説検定の考え方	・2つの変量の組の値を散布図に表すことによって、2つの変量の相関関係を調べる。 ・仮説検定の考え方について学び、具体的な事象を仮説検定の考え方をを用いて考察する。	・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	3		期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

数学は単純なことの積み上げです。あるステップから次のステップに上がることはそれほど難しくありません。しかし、それらが累々と積み上がって高度な体系になります。ですから、ある段階でのつまづきや知識の欠落が、次のステップに進む障害になるのです。毎日の予習・復習、特に復習が重要です。また、「わかった」という気分だけでは、実際に問題を前にしたとき、それが解けないことが多いのです。理解すべき内容を的確に自力で表現することができて初めて理解できたと言えます。普段の学習では、理解したと思えたらその内容を書いてみることを励行してください。

令和7年度 数学科 「数学A」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 1年 A～G組
教科書	数学A（数研出版）	副教材等	チャート式 解法と演習 数学I＋A

1 学習の到達目標

図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 円順列・重複順列 5 組み合わせ	・集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則，積の法則などの数え上げの原則について理解する。 ・事象の構造などに着目し，場合の数を求める方法を多面的に考察する。 ・具体的な事象を基に順列及び組み合わせの総数を求める。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	5		中間考査		
	6	第2節 確率	6 事象と確率 7 確率の基本性質 8 独立な試行の確率 9 反復試行の確率 10 条件付き確率 11 期待値	・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを用いて事象の確率や期待値を求める。 ・確率の性質や法則に着目し，確率を求める方法を多面的に考察する。 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを用いて事象の確率や期待値を求める。 ・独立な思考の意味を理解し，独立な試行の確率を求める。 ・条件付き確率の意味を理解し，条件付き確率を求める。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断し，期待値を意志決定などに活用する。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知） ・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	7				
	9		期末考査		

学期	月	単元名	学習項目		評価の材料等
後期	10	第2章 図形の性質 第1節 平面図形	1 三角形の辺の比 2 三角形の外心，内心，重心 3 チェバの定理，メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線	・三角形に関する基本的な性質について理解する ・円に関する基本的な性質について理解する。 ・図形の構成要素間の関係や既に学習した性質に着目し，図形の新たな性質を見だし，その性質について論理的に考察したり説明したりする。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知）
	11				
	12				
			中間考査		・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
学期	月	単元名	学習項目		評価の材料等
	1	第2節 空間図形	6 方べきの定理 7 2つの円の位置関係 8 作図 9 直線と平面 10 多面体	・空間図形に関する基本的な性質を理解する。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして，図形の性質や作図について統合的・発展的に考察する。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知）
	2				
	3				
			期末考査		・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）

3 評価の観点

知識・技能	図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見だし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見だし，数理的に考察する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し，年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス，授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

数学は単純なことの積み上げです。あるステップから次のステップに上がることはそれほど難しくありません。しかし，それらが累々と積み上がって高度な体系になります。ですから，ある段階でのつまずきや知識の欠落が，次のステップに進む障害になるのです。毎日の予習・復習，特に復習が重要です。また，「わかった」という気分だけでは，実際に問題を前にしたとき，それが解けないことが多いのです。理解すべき内容を的確に自力で表現することができて初めて理解できたと言えます。普段の学習では，理解したと思えたらその内容を書いてみることを励行してください。

令和7年度 理科「物理基礎」シラバス

単位数	2	学科・学年・学級	普通科・1年次・A～G組
教科書	物理基礎(実教出版)	副教材等	セミナー物理基礎+物理(第一学習社)

1 学習の到達目標

物体の運動と様々なエネルギーに関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 日常生活や社会との関連を図りながら，物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。

(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	・運動の表し方	・速さと等速直線運動 ・速度，位置と変位 ・加速度 ・等加速度直線運動	・物体の変位や速度などの表し方について，直線運動を中心に理解する。直線上を運動する物体の合成速度や相対速度についても扱う。 ・直線運動を中心に物体の加速度を理解する。 ・物体が空中を落下するときの運動を調べ，その特徴を理解する。 ・自由落下が等速直線運動であることを，実験的に確認する。	・学習意欲 ・発言内容 ・実験課題 ・定期考査
	5	・力と運動の法則	・力 ・力の性質 ・力のつり合い ・作用・反作用の法則 ・加速度が変化する要因	・観察や実験を通して，物体に様々な力がはたらくことを理解する。 ・物体にはたらく力の合成・分解をベクトルを用いて扱い，つりあいについて理解を深める。（三角比について数学とクロスカリキュラム） ・作用・反作用の法則を扱い，つりあう2力との違いを理解する。	
			中間考査		
後期	6	・運動の法則 ・運動方程式の活用	・運動の法則 ・運動方程式の活用	・運動の3法則について観察や実験を通して理解する。 ・運動方程式の立て方について学習し，斜面上の運動，連結した物体の運動など，様々な運動状態における運動方程式の立て方を理解する。	・学習意欲 ・発言内容 ・実験課題 ・定期考査
	7	・運動とエネルギー	・仕事とエネルギー ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギー保存の法則	・仕事，仕事の原理，仕事率を学習し，物理における「仕事」について理解する。 ・運動エネルギー，位置エネルギー，保存力を学習し，運動エネルギーや位置エネルギーの変化について，式を用いて理解する。 ・力学的エネルギーの保存について理解する。	
	9		期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	・熱	・熱と温度 ・熱量の保存 ・物質の状態変化	・熱運動，セルシウス温度，絶対温度を学習し，温度について理解する。 ・熱と熱量を学習したのち，熱平衡，潜熱，比熱，熱容量，熱量の保存，熱膨張について理解する。 ・熱と仕事は同等であることを学習し，内部エネルギー，熱力学の第1法則を理解する。 ・外部との熱のやり取りがないとき，熱量の保存から物質の比熱を測定できることを実験的に確認する。	・学習意欲 ・発言内容 ・実験課題 ・定期考査
	11	・波とは何か	・波の動きと表し方 ・波の速さと波を表すグラフ ・縦波と横波 ・波の独立性と重ね合わせの原理 ・定常波 ・波の反射	・正弦波と波，振幅，波長，周期，振動数，媒質の振動など，波の要素について学習する。 ・横波，縦波の特徴について理解する。 ・重ねあわせの原理，波の独立性，定常波，波の反射，固定端反射，自由端反射といった波の性質について学習する。	
	12	・音波	・音の基本的な性質 ・音のさまざまな現象 ・弦の振動 ・気柱の振動	・音の速さ，音の3要素，音の反射，うなりなど，音波の性質や伝わり方について理解する。 ・共振，共鳴，弦の固有振動，気柱の共鳴など，物体の振動について学習する。 ・ドップラー効果について学習する。 ・気柱の共鳴を利用して，おんさの振動数が気柱の長さから求められることを，実験により確かめる。	
			中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	・物質と電流	・電流 ・抵抗率	・摩擦電気を通して電気の原因となる電荷を学習し，静電気力，電流や電圧，オームの法則などについて理解する。 ・ジュールの法則を理解し，電力と電力量を理解する。	・学習意欲 ・発言内容 ・実験課題 ・定期考査
	2				
	3				
			期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら，物体の運動と様々なエネルギーに関する概念や原理・法則の理解ができているか。また科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能が身に付いているか。
思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーを対象に，情報の収集，仮設の設定，実験の計画，実験による検証，実験データの分析・解釈，法則性の導出，実験報告書や発表において，科学的に探究できているか。
主体的に学習に取り組む態度	物体の運動と様々なエネルギーに対して主体的に関わり，それらの事物・現象に対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度を示しているか。

4 評価の方法

知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価の観点に従い，総合的に評価する。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

・受け身では授業に参加したとは考えられない。積極的な発言を要請する。疑問に思ったことはすぐに解決を。質問は大歓迎。 ・授業内容がわかるだけではテストで点数は取れない。授業中の演習だけでは不十分であるから，問題集の導入問題，基本例題，基本問題は授業後毎回演習しておくこと。考査前のみの演習では不十分である。

令和7年度 理科 「化学基礎」 シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	普通科 1年A組～G組
教科書	高等学校 化学基礎	副教材等	セミナー化学基礎+化学 (第一学習社) サイエンスビュー化学総合資料 (実教出版)

1 学習の到達目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	序章 化学と人間生活		- 日常生活や社会を支える身近な物質に注目し、これらの物質の性質を調べる活動を通して、物質を対象とする学問である化学の特徴について理解する。 - 科目の導入として現実世界での活用を知り、化学への興味・関心を高める。	- 授業態度 - 発問評価 - ノート提出 - 実験レポート - 小テスト
		第1章 物質の構成			
		第1節 物質の成分と構成元素	①物質の成分 ②物質の構成元素 ③状態変化と熱運動	- 身近な物質を取り上げ、混合物から純物質を分離したり精製したりする実験などを行い、実験における基本操作と科学的に探究する方法を身に付ける。 - 身近な物質を取り上げ、元素を確認する実験などを行い、単体や化合物について理解する。 - 粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係により、物質の状態変化が起こることを理解する。(実験) 物質の分離法に関する実験	
	5	第3節 原子の構造と元素の周期表	①原子の構造 ②イオン ③元素の相互関係	- 原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解する。 - 元素の周期律および原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。 - イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。	
		第3節 物質と化学結合	①イオン結合 中間考査	イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることや、イオン結合でできた物質の性質を理解する。	
	6	第2章 物質の変化	②共有結合 ③金属結合 ④結晶の比較 ⑤結晶と単位格子	- 共有結合を電子配置と関連付けて理解する。 - 共有結合でできた物質の性質を理解する。 - 金属結合は自由電子が介在した結合であることを理解する。 - 金属結合でできた物質の性質を理解する。	- 授業態度 - 発問評価 - ノート提出 - 実験レポート - 小テスト
	7	第1節 物質と化学反応式	①原子量・分子量と式量 ②物質質量	粒子の数にもとづく量の表し方である物質質量の概念を導入し、物質質量と質量、物質質量と気体の体積との関係について理解する。(実験) アボガドロ定数の測定	
	9		③溶解と濃度	物質質量を用いた濃度の表し方であるモル濃度を理解する。さらに、質量パーセント濃度とモル濃度の変換について理解する。	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第1節 物質と化学反応式	④化学変化と化学反応式 ⑤化学反応の量的関係 ⑥化学変化における諸法則	・化学反応に関する実験などを行い、化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解する。 (実験) 化学反応式の量的関係	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
	11	第2節 酸と塩基の反応	①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定	・酸や塩基に関する実験などを行い、酸と塩基の性質および中和反応に関与する物質の量的関係について理解する。 (実験) pHに関する実験 (実験) 中和滴定	
	12	第3節 酸化還元反応	①酸化と還元 中間考査	・酸化還元反応が電子の授受で定義できることを理解する。	
	1		②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向	・酸化剤と還元剤の性質について理解し、酸化還元反応の量的関係の計算を身に付ける。 (実験) 酸化還元滴定 (実験) イオン化傾向	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
	2		⑤電池 ⑥金属の製錬 ⑦電気分解	・酸化還元反応の利用例として、電池や電気分解などがあることを理解し、電池の構成などの基本的な知識を身に付ける。 (実験) 電池 (実験) 電気分解	
	3		期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価の方法

下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取組 授業に対する姿勢、学習態度、化学への関心等で判断する。 (2)ノート等の記載内容 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。 (3)観察・実験等 観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。 (4)教科書・問題集の問題 各問題への取組、取り組んだ内容から評価する。 (5)中間・定期考査 学習内容に合わせて問題を出題する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

1 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつこと。 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。
--

令和7年度 保健体育科 「保健」シラバス

単位数	1 単位	学科・学年・学級	普通科・理数科 1 年A組～H組
教科書	新高等保健体育 (大修館書店)	副教材等	なし

1 学習の到達目標

- 1, 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに, 技能を身に付けるようにする。
- 2, 健康についての自他や社会の課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて思考し判断するとともに, 目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- 3, 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し, 明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等		
前期	4	1 現代社会と健康	1 日本における健康課題の変遷	健康指標や疾病構造の変化から、日本の健康課題を理解する。健康水準や疾病構造の変化には社会の状況が関わっていることを理解する。	【評価方法，課題・提出物等】 学期末考查の成績 プリント・ワークシートや提出物の内容 学習活動への参加の意欲や状況等を総合的に評価します。		
			2 健康の考え方と成り立ち	健康の考え方がどのように変化してきたのか理解する。健康の成立には様々な要因が関わっていることを理解する。			
			3 ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり	ヘルスプロモーションの考え方に基づく環境づくりの重要性を理解する。健康を保持・増進するための環境について理解する。			
			4 健康に関する意思決定・行動選択	健康を保持・増進するには適切な意思決定・行動選択が重要であることを理解する。意思決定・行動選択は様々な要因により影響を受けることを理解する。			
			5	5 現代における感染症の問題		感染症の発生や流行には自然や社会の環境が影響することについて理解する。新興感染症や再興感染症の発生や流行の現状とその理由について理解する。	
				6 感染症の予防		感染症予防の三原則について理解する。感染症を予防するために必要な社会および個人の取り組みについて理解する。	
				7 性感染症・エイズとその予防		性感染症・エイズの現状と今後の課題について理解する。性感染症・エイズの予防に必要な個人および社会の取り組みについて理解する。	
			中間考查				
	6		8 生活習慣病の予防と回復	生活習慣病のリスクを軽減し予防するために必要な個人の取り組みについて理解する。生活習慣病の予防や回復のために必要な社会の取り組みについて理解する。			
			9 身体活動・運動と健康	身体活動・運動と健康の関係について理解する。身体活動や運動の継続的な実践に必要な個人と社会の取り組みについて理解する。			
			10 食事と健康	食事と健康の関係について理解する。健康的な食生活の実践に必要な個人および社会の取り組みについて理解する。			
			7	11 休養・睡眠と健康			休養・睡眠と健康の関係について理解する。適切な休養・睡眠の確保に必要な個人および社会の取り組みについて理解する。
				12 がんの予防と回復			がんには様々な種類があることやがんの発生要因について理解する。がんの予防や回復のために必要な個人および社会の取り組みについて理解する。
				13 喫煙と健康			喫煙による健康への影響について理解する。喫煙による健康被害の防止に必要な個人および社会環境への対策について理解する。
			9	14 飲酒と健康			飲酒による健康への影響について理解する。飲酒による健康被害の防止に必要な個人および社会環境への対策について理解する。
				期末考查			

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	2 安全な社会生活	15 薬物乱用と健康	薬物乱用による健康および社会への影響について理解する。薬物乱用の防止に必要な個人および社会環境への対策について理解する。	【評価方法，課題・提出物等】 学期末考査の成績 プリント・ワークシートや提出物の内容 学習活動への参加の意欲や状況等を総合的に評価します。
	11		16 精神疾患の特徴	代表的な精神疾患の特徴や症状について理解する。精神疾患の発症，回復のポイントを理解する。	
			17 精神疾患への対応	精神疾患の予防や早期発見，治療や支援など適切な対応について理解する。心の健康社会の実現を目指した取り組みの重要性について理解する。	
			12	1 事故の現状と発生要因	
	2 交通事故防止の取り組み			交通事故防止には個人の取り組みと交通環境の整備が必要であることを理解する。交通事故には補償など法的責任が生じることを理解する。	
			中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1		3 安全な社会の形成	安全な社会をつくるために必要な個人の取り組みを理解する。すべての人たちの安全を確保するために必要な環境の整備について理解する。	
	2		4 応急手当の意義と救急医療体制	応急手当の意義と，その手順や方法を身につける必要性について理解する。救急医療体制の仕組みと社会的整備の必要性，適切な利用方法について理解する。	
			5 心肺蘇生法	心肺蘇生法の意義や方法，手順について理解する。心肺蘇生法ができるようにする。	
			6 日常的な応急手当	日常生活で起こるけがの基本的な応急手当の方法を理解し，できるようにする。熱中症の予防および基本的な応急手当の方法を理解し，できるようにする。	
	3			期末考査	

3 評価の観点

知識・技能	現代社会と健康，安全な社会生活について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
思考・判断・表現	現代社会と健康，安全な社会生活について，課題の解決を目指して総合的に考え，判断し，それらを表している。
主体的に学習に取り組む態度	現代社会と健康，安全な社会生活について，課題の解決を目指して粘り強い取組を行おうとし，自らの学習を調整しようとしている。

4 評価の方法

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から評価基準に従い，総合的に評価する。 【評価方法，課題・提出物等】 学期末考査の成績，プリント・ワークシートや提出物の内容，学習活動への参加や状況等を総合的に評価します。 【年間の学習状況の評価方法】 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点にもとづいて評価された各学期の成績を総合して，学年の学習成績とします。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス，授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

「保健」は，「健康を保つ」ことを取り扱う授業で，毎週1時間の授業が行われます。健康問題がテレビや新聞等で大きく取り扱われる現状の中で，正しい情報を取り入れ適切な生活行動を選択できるようになることが求められています。 「保健」では，自分や家族の健康を保持増進するための基本的な事項を理解するだけでなく，日常生活の中の課題を見つけ出し解決の方法を導き出すことが出来るような授業を展開します。 日常生活において，空気と同じように，あって当然，なくなると困るもの，それが健康です。毎日の生活の中で「身体の健康」「心の健康」に目を向けましょう。

令和7年度 保健体育科 「体育」シラバス

単位数	普通科3単位・理数科2単位	学科・学年・学級	普通科・理数科 1年A組～H組
教科書	新高等保健体育	副教材等	なし

1 学習の到達目標

1. 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けられるようにする。 2. 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 3. 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	体づくり運動	体づくり運動	さまざまな健康の考え方自己の体力や生活に応じて、体の調子を整える等のほぐしの運動を中心に行います。	課題カード等
	5	選択体育	屋外スポーツ テニス サッカー ソフトボール 屋内スポーツ 卓球 バレーボール バスケットボール バドミントン 武道 柔道 剣道	前期1種目、後期2種目（計3種目）を選択します。 種目の特性を理解し、自己やグループの能力に応じた課題の発見・解決を目指し、皆で協力し計画を立て、実践していきます。 運動・スポーツの楽しさや喜びを味わうことができるよう、自ら進んで活動します。	出欠 グループノート 参加意欲・態度 スキルテスト
	6				
	7	水泳	水泳 泳力測定 時間泳	今ある技能、泳力を測定します。 今できる泳ぎ方でより長く泳ぐことに挑戦して水泳の楽しさや喜びを味わえるようにします。 より高度な技能の習得と、新たな泳法の習得を行い、自己の課題解決をするなど泳法の高まりに応じて競泳の仕方を工夫します。 記録に挑戦して、技能を高めます。 ・4泳法選択練習 ・キック、プル、コンビ、ターン練習 ・タイム測定	出欠 参加意欲・態度 時間泳距離測定 タイム測定 見学レポート
	9	体育理論	運動・スポーツの学び方	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について学習します。また、健康を成り立たせている要因について説明できるようにします。	

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	選択体育	屋外スポーツ テニス サッカー ソフトボール 屋内スポーツ 卓球 バレーボール バスケットボール バドミントン 武道 柔道 剣道	前期の選択種目と異なる種目を選択し、前期で学んだことを基礎に、種目の特性を理解し、計画や目標を立て自ら進んで学習します。	出欠 グループノート 参加意欲・態度 スキルテスト
	11				
	12				
	1	陸上競技	持続走	距離走を行い、自分の能力に応じたペースで走り、記録の向上を目指します。 心肺機能を高める運動を行うことにより、健康の保持増進につながる活動を、自らの生活の中で実践できる態度や能力を身につけます。	出欠 タイム測定 見学レポート
	2				
	3	体づくり運動	体づくり運動	自己の体力や生活に応じて、体の調子を整える等のほぐしの運動を中心に行います。	課題カード等

3 評価の観点

知識・技能	選択した種目で必要とする技術、体力やその高め方、動きや改善のポイント、仲間と継続的に活発に活動するための調整の仕方等を理解し身に付けている。
思考・判断・表現	自己や仲間が継続的にスポーツと多様に関わる中で広い視野に立って課題を発見できる。自ら計画を立て実践し課題の解決に向け工夫し努力できる。その課題について思考・判断したことを言葉や動作で表現でき、理論的に伝えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	それぞれの種目の活動を通して運動の特性を理解し、その楽しさや喜びを深く味わうことができる。公正に取り組み、互いに協力して自己の責任を果たすことができる。運動やスポーツを継続して実践できる意欲がある。

4 評価の方法

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

安全に楽しく運動することが大切です。運動するのにふさわしい指定の服装に心がけ自己の能力を最大限発揮できるよう努力しましょう。また、生涯を通じて運動に親しむことができるよう運動の方法や理論なども身につけられるようにしましょう。スキルテストで高得点を取ることが目標ではなく、様々な運動技能の発達を促すことを目指し、仲間との関わりを大切にしながら展開していきます。

単位数	2	学科・学年・学級	普通科・理数科 1年A組～H組
教科書	MOUSA 1	副教材等	なし

1 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	歌唱	・校歌	・音符や休符の意味を理解し、読譜能力を高める。 ・正しい姿勢、正しい発声、正しい音程とリズムを身に付ける。 ・仲間と協働し、美しいハーモニーを作る。	観察、プリント 実技試験
	5	楽典	・音の長さ ・音符と休符 ・拍子 ・音名 ・音程	・音の長さを理解し、正しいリズムを叩く。 ・音符と休符の種類を学習し、正しく書く。 ・拍子について理解する。 ・イタリア音名、英語音名、日本語音名を理解する。 ・長短音程、完全音程を理解する。	観察、プリント 筆記試験
	6	器楽	・ヴァイオリン	・基本的な奏法を身に付け、演奏する。 ・楽曲の特徴を感じ取り、表現を工夫して演奏する。	観察、プリント 実技試験
	7	鑑賞	・動物の謝肉祭	・音楽の要素を知覚し、それらの要素がどのような働きをしているか理解して鑑賞する。	観察、プリント
	9	歌唱	・Caro mio ben	・ベルカント唱法を理解して歌う。 ・歌詞の意味や音楽記号・用語の意味を理解し、表情豊かに歌う。	観察、プリント 実技試験
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	鑑賞	・古代・中世の音楽 グレゴリオ聖歌 ・ルネサンスの音楽 ・バロックの音楽 ・古典派の音楽 ・ロマン派の音楽 ・近代・現代の音楽 ・現代日本の音楽	・それぞれの時代背景を理解し、音楽の特徴を学習する。 ・音楽の要素を知覚し、それらの要素がどのような働きをしているか理解して鑑賞する。	観察、プリント 筆記試験
	11	歌唱	・言わない ・ぼくは ぼく ・おんがく	・音符や休符の意味を理解し、読譜能力を高める。 ・正しい姿勢、正しい発声、正しい音程とリズムを身に付ける。 ・仲間と協働し、美しいハーモニーを作る。	観察、プリント 実技試験
	12	歌唱	・十二平均律と周波数	・十二平均律と周波数について理解し、美しいハーモニーを作る。(数学とのクロスカリキュラム)	観察、プリント

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
1	楽典	・調 ・音階 ・和音 ・コードネーム	・調、音階、和音、コードネームについて理解し、作曲できるようにする。	観察、プリント 筆記試験
2	創作	・1年間の思い出を歌にする	・言葉のリズムや抑揚を理解し、旋律を作る。 ・コードネームを理解し、旋律と伴奏を作る。	観察、プリント
3				

3 評価の観点

知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

音楽を通して豊かな表現力を身に付け、自分の感じたことを自由に表現する喜びを学んでください。表現領域（歌唱、器楽、創作）では、発表会形式の実技試験を行います。人前で自己表現する力を身に付けましょう。鑑賞では、ただ聴く・観るだけでなく、楽曲が作られた時代や作曲者の人物像を学び、それが楽曲にどう影響しているかを考えながら授業に臨んでください。 音楽は人生に彩りを与えてくれます。様々な音楽に触れ、人生を豊かにし、一緒に「音」を「楽」しみましょう。

令和7年度 芸術科 「美術Ⅰ」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	1年 A～H 組
教科書	美術1	副教材等	アクリル絵の具セット、デッサンセット

1 学習の到達目標

- 1, 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに表現方法を創意工夫し造形的に表すことができるようにする。
- 2, 表現の意図と工夫などについて考え、創造的に発想し価値意識をもって美術に関する見方、感じ方を深める。
- 3, 主体的に創造活動に取り組み生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	オリエンテーション	美術とは 絵画の見方	作品鑑賞	・プリント ・発言内容
	5	絵画 鉛筆デッサン クロスカリキュラム×科学 色彩について	【デッサン基礎】 ・道具の扱い方 ・鉛筆トーン ・かたちの取り方 ・陰影、明暗 ・鉛筆のタッチ ・静物デッサン 【作品鑑賞会】	鉛筆、練り消しなど道具の使い方を理解し、様々なタッチの種類、デッサン技法を習得する。また、対象をよく観察し、観察力を鍛え表現力を身に付け、かたちのなりたちを考え陰影の付け方など学ぶ。 ひとり1セットモチーフを組み、スケッチブックに静物デッサンを制作。 生徒相互で作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を感じ取り、鑑賞プリントにまとめる。	・授業態度 ・制作活動の様子 ・スケッチブック ・作品 ・鑑賞プリント
	6	デザイン 色彩構成	【色彩研究】 ・言葉と色彩	教科書や生徒作品を参考に平面デザインと色彩の基礎について学ぶ。 ※6月中にクロスカリキュラム実施 スケッチブックに均等にマス目を引き、色彩表をつくる。 学んだ色彩基礎を考慮しながら対をなす言葉を選び、その言葉に合った色を着彩。	・授業態度 ・制作活動の様子 ・スケッチブック ・作品 ・鑑賞プリント
後期前半 ～ 後期前半	9	デザイン 色彩構成	【有名人の顔のデザイン】 ・顔のトレース ・パネル水張り ・パネルに下描き ・面割り	自分の描きたい有名人の写真を用意し、パネルとの比率を合わせる。 自分の選んだ人物のプリントにマス目を引く。水張りしたパネルに同じ比率のマス目を引き、プリントとパネルのマス目をひとマスづつ写し取っていく。 パネルに顔の下描きが写せたら、明度段階を考慮しながら、面分割を行う。	・授業態度 ・制作活動の様子 ・作品 ・鑑賞プリント
	10		・色彩構成 ・着彩	パネルに顔を全て写し終えたら、明暗分割を施し、明暗段階に分け色彩を決め、自分のカラーチャートを制作。 カラーチャートを元に薄い色から全体のバランスを考えながら着彩していく。	・授業態度 ・制作活動の様子 ・作品 ・鑑賞プリント
	11		【作品鑑賞会】	生徒相互で作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を感じ取り、鑑賞プリントにまとめる。	・授業態度 ・制作活動の様子 ・作品 ・鑑賞プリント
	12				

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	1	塑像 リアル架空動物	【リアル架空動物】 ・アイディアスケッチ ・シルククレイ彫塑 ・着彩	三面図、動物データ作成 芯材に粘土を貼り付け、骨格をつくったの後、質感など細かな部分を彫塑していく 絵の具の特性や使い方を工夫してリアル感を出す。	- 授業態度 - 制作活動の様子 - 作品 - 鑑賞プリント
	2				
	3		【作品鑑賞会】	生徒相互で作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を感じ取り、鑑賞プリントにまとめる。	

3 評価の観点

知識・技術	- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 - 意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
思考・判断・表現	- 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考える事ができる。 - 自ら主題を生成し創造的に発想し構想を練っている。 - 価値意識をもって、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

美術Ⅰでは美術表現の基礎について学びます。絵を描くのは苦手という人も一つ一つの技法を理解し、集中力を鍛え、表現力を磨けば絵は上達していけるはずです。また、この授業では作品の「上手」「下手」だけで評価はしません。授業の取り組み方、道具の扱い方、掃除片付けなど学校生活における基本的なあり方や、自分らしい表現方法を模索し、意欲的に制作に励む姿勢を評価したいと思います。

真剣に楽しく、自分にしか作り出せない作品を創っていきましょう。

・授業内容や時間配分などは、作品の進行状況によって変更する場合があります。

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科、理数科・1年次・A～H組
教科書	書Ⅰ（光村図書）	副教材等	

1 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
前期	4	書へのいざない	書道の学習	・中学校までの書写の学習を振り返り、書写と書道の共通点と相違点を理解する。 ・書の学習における古典の意味を考える。 ・姿勢や執筆など書の基本を身に付ける。 ・用具・用材の種類、名称、扱い方等について学ぶ。	・学習活動への参加状況や態度 ・ワークシートの記入状況 ・提出作品	
	5	漢字の書	書体の変遷	・書とはどのような芸術であるかを考える。 ・漢字の書体の変遷と仮名の誕生について理解する。		
	6		篆書 泰山刻石	・様々な書体に触れる。 ・用筆法と結体法について学ぶ。		
			篆刻 自分を表す印の制作	・名前の漢字を使った1字印を制作する。		
			隸書 曹全碑	・様々な書体に触れる。 ・用筆法と結体法について学ぶ。		
	7		漢字の書	行・草書		・行草書の特徴を理解し、古典の書風の相違を感得する。
	8		集王聖教序 蘭亭序	・王羲之の書の鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ。		
			争坐位稿 風信帖	・顔真卿および空海の書の鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ。		
			書譜 自叙帖	・孫過庭および懷素の書の鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ。		
	9					

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	漢字の書	倣書・創作 ～墨色を探る～	・団扇作品を制作する。 (地学とのクロスカリキュラム)	・学習活動への参加状況や態度 ・ワークシートの記入状況 ・提出作品
			楷書	・楷書の成立や特徴を学ぶ。	
			孔子廟堂碑	・孔子廟堂碑の鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ。	
			九成宮醴泉銘	・九成宮醴泉銘の鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ。	
			雁塔聖教序	・雁塔聖教序の鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ。	
	11		顔氏家廟碑	・顔氏家廟碑の鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ。	
	12	仮名の書	仮名を知る	・仮名の生まれた背景と変遷を理解する。	
			基本的な筆使い	・仮名の基本用筆を学ぶ。	
			古筆を知る	・古筆と伝承筆者について知る。	
			高野切第三種	・高野切の鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ。	
	1	漢字仮名交じりの書			
			心に響く言葉を書く	・言葉と表現の関係について考える。 ・漢字と仮名の調和を学ぶ。	
			好きな言葉を書こう	・漢字仮名交じりの書の紙面構成を学ぶ。	
	2				
	3				

3 評価の観点

知識・技能	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。
思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から評価規準に従い、総合的に評価します。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

- ・書道Ⅰの授業では、唐時代以前に書かれた古い作品を手本とし学ぶ『臨書』による作品制作が中心となります。お手本をただ書き写すのではなく、よく観察し書家の思いや時代背景等にも注目しながら書くようにしましょう。そうすることで、上手い下手では言い表せない奥深く印象的な作品となります。
- ・作品制作は、練習（試行錯誤）→清書→鑑賞の流れで進めます。自分の作品や他者の作品の鑑賞から得たものを次の作品に生かすことでより良い作品制作が可能となります。清書＝ゴール、ではないということを意識しましょう。
- ・美しいものを美しいと感じる心を一緒に育てていきましょう。自らの感性を大切に、様々な書を鑑賞することが第一歩です。
- ・文房四宝は丁寧に扱い、使用後のお手入れを怠らないことが上達への近道です。

令和7年度 外国語「英語コミュニケーションⅠ」シラバス

単位数	3 単位	学科・学年・学級	普通科・理数科 1 年 A 組～H 組
教科書	ELEMENT English Communication I (啓林館)	副教材等	be 総合英語 4th Edition (いっずな書店) 英単語ターゲット1900 (旺文社) Rapid Reading 改訂版 Level 2 (美誠社)

1 学習の到達目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

2 学習の計画

前期学習指導計画											
月	育成する資質能力（CAN-DO記述）	学習項目 （教材名等）	学習内容や学習活動 （言語活動等）	評価 の 観点	領域					評価 項目 数	主な評価規準 （評価方法）
					聞	読	取	発	書		
4	<L>英語特有のリズム・イントネーションを聞き、発話を理解することができる。<R>平易な英語で書かれた短い物語を読んで、必要であれば読み直したりしながら、概要を理解することができる。<S>自分にについて、簡単な表現を使って話すことができる。短い定型文を使えば簡単な質問や応答ができる。<W>自分に関するごく限られた情報を、簡単な語句や文を用いて書くことができる。	Lesson 1 Intercultural Relationships	<L>海外の高校生に日本の文化を紹介する計画についての会話を聞き取る。<R>英語の5文型、受動態、to不定詞を用いた文の構造を理解する。<S>自分のことについてクラスメートと情報を伝え合う。<W>アメリカからの交換留学生に、自己紹介のメールを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15	・定期考査 ・単語テスト ・スピーキングテスト ・ワークシート記述 ・課題レポート ・授業内活動など	
5	<L>つながりやすい音や変化しやすい音を開き分け、自然なスピードの発話を理解することができる。<R>平易な英語で書かれた短い物語を読んで、必要であれば読み直したりしながら、概要を理解することができる。<S>ごく身近な事柄について、短い定型文を使えば簡単な質問や応答ができる。<W>ごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書くことができる。	Lesson 2 Love beyond Species	<L>つながりやすい音・変化しやすい音を開き取る。<R>現在完了形／現在完了進行形、分詞の限定用法を用いた文の構造を理解する。<S>ペットを飼いたい子どもと反対する親という設定でロールプレイを行う。<W>Christian the Lionのストーリー・レポートを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
中間考査				知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	4		
6	<L>発音されなくなるや弱く発音される音を含んだ発話を理解することができる。<R>身近な事柄について平易な英語で書かれた短い説明を読んで、必要であれば読み直したりしながら、概要を理解することができる。<S>身近な事柄について、何らかの手助けがあれば、自分の意見と理由を短く簡単な言葉で伝え合うことができる。<W>ごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書くことができる。	Lesson 3 Contributing to Our Planet	<L>使い捨てのビニール袋とエコバッグのメリット・デメリットを聞き取る。<R>関係代名詞、使役動詞を用いた文の構造を理解する。<S>身近な環境問題とその解決策について話し合う。<W>アメリカからの交換留学生に、ボランティアに参加するように誘うメールを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
7	<R>平易な英語で書かれたスピーチを読んで、必要であれば読み直したりしながら、情報を事実と意見に整理することができる。	Further Reading 1 Toward Sustainable Development Goals	<R>SDGsについてのスピーチを読み、情報を事実と意見に整理する。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	3		
	<R>短く平易な英語で書かれたパンフレットを読んで、必要な情報を読み取ることができる。<S>身近な事柄について、何らかの手助けがあれば、自分の意見と理由を短く簡単な言葉で伝え合うことができる。	Communication in Practice 1 Amusement Park Visit	<S>どの順番でアトラクションやアクティビティ、昼食を回るかについて話し合う。<W>これまで行ったことのあるアミューズメントパークについての感想を書き、SNSに投稿するように書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	9		
9	<L>はっきりとした、簡単な挨拶や指示を理解することができる。<R>身近な事柄について平易な英語で書かれた短い説明を読んで、登場人物の心情を理解することができる。<S>比較的身近で社会的な事柄について、何らかの手助けがあれば、グラフの情報をもとに自分の考えや気持ちなどを伝えることができる。<W>ごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて短い英文を書くことができる。	Lesson 4 Messages for World Peace	<L>博物館を訪れた生徒に先生がしている諸注意を聞き取る。<R>過去完了形、知覚動詞を用いた文の構造を理解する。<S>山口さんの願いを継ぐために自分たちがすべきことについてディスカッションをする。<W>平和について自分の意見を書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
期末考査				知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	4		

後期学習指導計画											
月	育成する資質能力（CAN-DO記述）	学習項目 （教材名等）		評価の観点	領域					評価項目数	主な評価基準（評価方法）
					聞	読	取	発	書		
10	<L>身近な事柄について、簡単でごく短い会話や説明を、視覚することができる。<R>身近な事柄について平易な英語で書かれた短い物語を読んで、登場人物の心情をおさえ、概要を理解することができる。<S>身近な事柄について、何らかの手助けがあれば、簡単な表現を使って自分の気持ちを伝えたり、簡単な質問や応答をすることができる。<W>聞いたり読んだりした内容について内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができる。	Lesson 5 Respecting Each Other	<L>身近な人や物について話している会話を聞き取る。 <R>関係代名詞のwhat、関係副詞を用いた文の構造を理解する。 <S>示された状況に沿って感謝の気持ちを伝えるときにも行事に招待する。<W>困難な状況にある友人を元気づける電子メールを書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15	・定期考査 ・単語テスト ・スピーキングテスト ・ワークシート記述 ・課題レポート ・授業内活動 など	
11	<L>身近な事柄について、基本的な情報を聞き取ることができる。（日付・曜日・時刻・単位など）<R>平易な英語で書かれた短い説明を読んで、概要を理解することができる。<S>相手の話に対し、簡単な定型表現を使って、興味があることについて伝え合うことができる。<W>身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができる。	Lesson 6 Language and Culture	<L>ラジオニュースを聞き取る。 <R>関係代名詞の非限定用法、分詞構文を用いた文の構造を理解する。 <S>好きなアニメや漫画、映画について発表する。 <W>日本文化が楽しめる場所を例示しながら説明する文章を書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
12	<R>身近な事柄について平易な英語で書かれた短いエッセイを読んで、概要を理解することができる。	Further Reading 2 Pictures without Shadows	<R>モード・ルイスについてのエッセイを読み、概要を理解する。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	3		
	<R>比較的短く平易な英語で書かれたインターネット広告から必要な情報を読み取ることができる。<S>身近で社会的な事柄について、何らかの手助けがあれば、簡単な英語を使って自分の意見を伝え合うことができる。<W>聞いたり読んだりした内容について内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができる。	Communication in Practice 2 Taking Part in International Volunteer Work	<R>国際ボランティアの案内を読み、必要な情報を読み取る。 <S>どのボランティアに参加するかを話し合う。 <W>国際ボランティアへの参加フォームに記入する。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	9		
	中間考査			知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	4		
1	<L>短いはっきりとした、簡単なメッセージやアナウンスを聞いて必要な情報を聞き取ることができる。<R>身近な事柄について平易な英語で書かれた短い説明を読んで、概要を理解することができる。<S>比較的身近で社会的な事柄について、必要に応じて手助けがあれば、簡単な英語を使って意見交換ができる。<W>身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができる。	Lesson 7 Technology and Discoveries	<L>科学イベントのスケジュールと講演の内容を聞き取る。 <R>形式主語のit、be動詞の補語になるthat節を用いた文の構造を理解する。<S>歴史上最も偉大な発明は何かについて話し合う。 <W>電子書籍より紙の書籍を好む理由を対比しながら書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
2	<L>身近な事柄について、短いはっきりとした会話を聞いて聞いて概要を理解することができる。<R>社会的な事柄について平易な英語で書かれた短い説明を読んで、登場人物の心情をおさえ、概要を理解することができる。<S>社会的な事柄について、短い英文や簡単な発表することができる。<W>身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができる。	Lesson 8 Standing Up for Human Rights	<L>人権を守る試みについての会話を聞き取る。 <R>仮定法過去／仮定法過去完了、過去完了進行形を用いた文の構造を理解する。 <S>ある人物の経歴についてまとめ、発表する。 <W>・Playing the Enemy で人権に関する状況がどのように変わったかを時系列に沿って書く。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
3	<R>比較的平易な英語で書かれたインターネットの広告から必要な情報を読み取ることができる。<S>比較的身近な事柄について必要に応じて手助けがあれば、簡単な英語を使って自分の意見を伝え合うことができる。<W>聞いたり読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、必要な情報や質問を書くことができる。	Communication in Practice 3 Looking for an Apartment for Studying Abroad	<R>アパートの広告を読み、必要な情報を読み取る。 <S>ウェブサイトの情報と親の希望をもとに、アパートを借りる際の条件について話し合い、アパートを決める。<W>アパートの見学の申し込みフォームに記入する。	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	9		
	期末考査			知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	4		

評価の方法	定期考査/単語テスト/スピーキングテスト/ワークシート記述/課題レポート、授業内活動などを上記3観点に基づき、総合的に評価します。普通科と理数科の評価方法は違います。
担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)	辞書は毎回必ず持参しましょう。予習よりも復習の方が大切です。教科書は臨機応変に進めていきます。

令和7年度 外国語「論理・表現Ⅰ」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科・理数科 1年A組～H組
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression I (桐原書店)	副教材等	教科書準拠ワークブック (桐原書店) 及び be 総合英語 4th Edition (いっずな書店)

1 学習の到達目標

英語で様々な物事について考え、話し合いながら論理的な思考を深めることが目標である。時には批判的意見を持つことや、相手を説得することなどを学ぶ。

2 学習の計画

前期学習指導計画									
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価 の 観点	領域				
					知	聞	読	取	発
4	自分の発言が正しいか確認し、相手の話を理解して考えを付け足す方法を学ぶ。 相手について今まで知らなかったことを聞き出すことができる。 相手と会話を続けて、自分との共通点を探し出すことができる。 動詞 / 否定文と疑問文、基本文型を理解し、正しく使うことができる。	Unit0 Get to know more about your classmates	[話題] 学校生活・自分の好きな事 [機能] 確認する/考えを述べる [文法] 1) 動詞/否定文と疑問文 2) 基本文型 [表現] 話す[発表]、書く、スピーチ	知	○	○	○	○	○
	相手の発言に驚いて反応したり、相手に同情する気持ちや希望を伝え、スケジュールを相談しながら決めることができる。 情報を共有し、自分たちの町に役立つか話し合うことができる。 展示会についての感想をブログの日記に書くことができる。 時を表す表現を理解し、正しく使うことができる。	Unit1 Smart home, smart city	[話題] 科学技術と未来生活 [機能] 相手の発言に反応する/同情する気持ちを伝える [文法] 時を表す表現 [表現] 話す[発表]、書く、スピーチ	知	○	○	○	○	○
5	相手の期待に反することを言う方法や、相手の発言を認めようとして反論する方法を学習する。 魅力を紹介し、相手に興味を持たせて誘うことができる。 通りをしながら町並みの変化について説明することができる。 移住体験ツアーをすすめるウェブの広告文を書くことができる。 完了形を学び、会話やコミュニケーションの中正しく使うことができる。	Unit2 History and future of our town	[話題] 地域社会・まちづくり [機能] 相手の期待に反することを言う/認めようとして反論する [文法] 完了形 [表現] 話す[やり取り]、書く	知	○	○	○	○	○
	意見を明確に示したまとまりのある文章を書くことができる。 自分が将来今の町に住みたいかについてスピーチをすることができる。	TL1 The town you want to live in in the future	[話題] 移住・地域活性化 [機能] 理由を論理的に述べる [文法] なし [表現] 話す[発表]、書く、ディスカッション	知	○	○	○	○	○
6	念を押して確認する方法や、驚いて聞き返す方法を学ぶ。 興味のある商品を紹介し、その特長を説明することができる。 店員に要望を伝え、購入する商品を決めることができる。 防災意識を高めるパンフレットの文章を書くことができる。 助動詞を学び、会話の中で正しく使うことができる。	Unit3 Preparing for a natural disaster	[話題] 自然災害・防災 [機能] 念を押して確認する/聞き返す [文法] 助動詞 [表現] 話す[やり取り]、書く	知	○	○	○	○	○
中間考査									
6	相手の発言に共感し、相手の発言を明確に肯定する方法を学ぶ。 相手が知らない情報について説明することができる。 問題に対処するための道具を紹介することができる。 道具購入の寄付を募るためのポスターを書くことができる。 受動態を学び、コミュニケーションの中で正しく使うことができる。	Unit4 Water supporting our lives	[話題] 水をめぐる問題 [機能] 共感/相手を肯定する [文法] 受動態 [表現] 話す[やり取り]、書く	知	○	○	○	○	○
	適切な理由が示されたまとまりのある意見文を書くことができる。 環境に配慮した生活を続けるために大事なことについてスピーチをすることができる。	TL2 Can you continue eco-friendly activities?	[話題] 環境に配慮した生活 [機能] 理由を明確に示した理由文を書く/スピーチをする [文法] なし [表現] 話す[やり取り]、書く、スピーチ	知	○	○	○	○	○
7	考え中であることを伝えるときに、話を踏まえて相手にすすめる力を養う。 お互いの状況を踏まえて問題解決の結論を出すことができる。 情報を照らし合わせて条件に合うものを確認することができる。 フードバンク団体を支援する手紙を書くことができる。 不定詞を学び、正しく使うことができる。	Unit5 Save food you can still eat!	[話題] フードロス問題 [機能] 考え中であることを相手に伝える/相手にすすめる [文法] 不定詞 [表現] 話す[やり取り]、書く	知	○	○	○	○	○
8・9	気の毒に思っていることを示す方法を学ぶ。また、確信していることを示す方法を学び、習得する。 自分の生活習慣を確認し、変えたい習慣を伝えることができる。 相手からの悩み相談にアドバイスをすることができる。 生活習慣についての意見をウェブの掲示板に書くことができる。 動名詞を学び、正しく使うことができる。	Unit6 How can we become more health-conscious?	[話題] 健康・ライフスタイル [機能] 確信していることを示す/気の毒に思っていることを示す [文法] 動名詞 [表現] 話す[発表]、書く	知	○	○	○	○	○
期末考査									

後期学習指導計画									
月	育成する資質能力 (CAN-DO記述)	学習項目 (教材名等)	学習内容や学習活動 (言語活動等)	評価の 観点	領域				
					聞	読	取	発	書
10	適切な具体例や説明が示されたまとまりのある意見文を書くことができる。 フードロスを減らすために大事なことについてプレゼンテーションをすることができる。	TL3 What can wedo to reduce food waste?	[話題] フードロス [機能] 具体的に意見を述べる [文法] なし [表現] 話す[発表] 書く	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8
10	「まさか」と驚きを示す表現を学ぶとともに、相手に提案する方法を習得する。 贈るための商品を相談しながら決めることができる。 プレゼントへの感謝の気持ちを伝えることができる。 企業の講演に感想やお礼のメールを書くことができる。 分詞を学び、正しく使うことができる。	Unit7 How many clothes do you buy?	[話題] ファッションと環境問題 [機能] 驚きを表す/提案する [文法] 分詞 [表現] 話す[発表]、書く	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8
11	聞き逃したことを聞き返し、相手の発言の意図を確認する方法を学ぶ。 おすすめの商品を比較しながら紹介することができる。 図表を見ながらパンフレットの内容を説明することができる。 フェアトレード商品のよさをブログで発信することができる。 比較を学び、正しく使うことができる。	Unit8 How can you decide which products to buy?	[話題] フェアトレード [機能] 聞き逃したことを聞き返す/発言の意図を確認する [文法] 比較 [表現] 話す[やり取り]、書く	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8
12	つなぎ言葉を用いて論理的な流れの意見文を書くことができる。 賛成と反対の立場に分かれて簡単なディベートをすることができる。 安価なシャツを買うかどうかについてスピーチをすることができる。	TL4 Think before you buy!	[話題] エシカルファッション [機能] 繋ぎの言葉を用いて論理的な意見文を書く/ 賛成、反対の意見を述べる [文法] なし [表現] 話す[ディベート]、書く	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8
中間考査									
1	なぜかわからないと伝えるときに、話題にさらに論点を加える方法を学ぶ。 お互いの考えるよい方法を具体的に説明し合うことができる。 お互いの希望を伝え合い参加プログラムを決めることができる。 事前の問い合わせで疑問点を尋ねるメールを書くことができる。 関係詞節とその他の節について学び、コミュニケーションの中で適切に使うことができる。	Unit9 How can you decide which products to buy?	[話題] 教育・学びの多様性 [機能] わからないと伝える/ 話題に論点を加える [文法] 関係詞 [表現] 話す[発表] 書く プレゼンテーション	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8
2	相手の発言に同意する方法や、残念な気持ちを表す表現方法を学ぶ。 相手の要望に合った提案をすることができる。 旅のエピソードを聞いて問題の解決策を話し合うことができる。 外国人観光客に役立つパンフレットの文章を書くことができる。 仮定法を学び、適切に使用することができる。	Unit10 How can you decide which products to buy?	[話題] 外国人観光客 [機能] 残念な気持ちを表す/ 同意する [文法] 仮定法 [表現] 話す[やり取り]、書く	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8
3	語句や文のつながりをよくして構成の整った意見文を書くことができる。 司会者を立てて簡単なディスカッションをし、結論を出すことができる。 移住してきた外国人に伝えることについてスピーチをすることができる。	TL5 How can we make our community foreigner- friendly?	[話題] 在留外国人との共生 [機能] 語句や文の繋ぎのりの良い構成の整った文を書く/ディス カッションで結論を出す [文法] なし [表現] 話す[ディスカッション]、	知 思 態	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	8
期末考査									

評価の観点	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
知識・ 技能	○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。 ○外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。				
思考・ 判断・ 表現	○場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。 ○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。				
主体的に 学習に 取り組む 態度	○外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。 ○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。				

評価の方法	上記の観点から評価基準に従い、以下の評価対象などを総合的に評価する。普通科と理数科の評価方法は違います。 【評価対象】 (a) 授業中の活動への取り組み状況 (b) 小テスト・定期考査等のペーパーテスト (c) スピーチ・プレゼンテーション・ディベート等のパフォーマンステスト (d) ノート・ワークブック・レポート等の提出物
担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるための アドバイス、授業を受けるにあたって 守ってほしい事項など)	・英語でコミュニケーションをする時に大切なことは、積極的な姿勢を持ち続けることです。間違いを恐れず、間違いから学ぶ気持ちを持って表現しましょう。 ・より円滑にコミュニケーションができるよう、単語や表現を覚え、文法や言葉の働きを学びましょう。そのためには、できるだけたくさんのことを吸収しようという意欲と反復練習が大切です。 ・文法の授業では、予習、復習を怠らないようにしましょう。予習では参考書を活用しましょう。 ・学んだ英語を実際に書いたり話したりする機会を大切にし、クラスメイトとたくさんコミュニケーションをとることによって英語を身につけましょう。

令和7年度情報科「情報Ⅰ」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科，理数科 1年A組～H組
教科書	東京書籍情報ⅠStepForward！	副教材等	学習ノート・問題集

1 学習の到達目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに，情報社会と人と関わりについて理解を深めるようにする。
- (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに，情報社会に主体的に参画する態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1章情報社会	オリエンテーション	・Society5.0から情報Ⅰの学習目標とシラバスを理解する。 ・実習用コンピュータの使い方を理解する。	ワークシート 実習課題
	5		1 情報とその特性[p. 2] 2 メディアとその特性[p. 4] (問)人と連絡を取るとき、適切なメディア 3 問題を解決する方法[p. 6] 4 情報の収集と分析[p. 8] 5 解決方法の考案[p. 10] 実55 アイディアの大量生産	・情報とは何か理解する。 ・情報の信憑性を評価する方法を理解する。 ・メディアとは何か理解する。 ・各種メディアの特性を理解する。	ワークシート 実習課題
			6 知的財産[p. 12] 7 個人情報[p. 14] (問)写真で個人が特定される情報を見つける	・問題を発見・解決するための一連の流れを理解する。 ・PDCAサイクルについて学習する。 ・データマイニングについて学習する。・問題解決の各場面で活用できる発想法を学習する。 ・問題解決の各手法と整理方法を学習する。	ワークシート 実習課題
			8 情報セキュリティ[p. 16] 9 情報モラルと個人の責任[p. 18]	・知的財産とは何か学習する。 ・著作権と産業財産権について学習する。 ・個人情報とは何か理解する。 ・個人情報が流出・特定される仕組みについて学習する。	ワークシート 実習課題
			2章情報デザイン	・情報セキュリティについて学習する。 ・不正アクセスとソーシャルエンジニアリングについて学習する。 ・情報社会で生活していくための情報モラルを理解する。 ・情報社会の安全を守るための、法規および個人の責任について学習する。	ワークシート
	7		21 メディアと文化の発展[p. 50] (問)UGCについて調べる。 22 ネットコミュニケーションの特徴[p. 52] (問)新型コロナ時のインターネットの情報	・インターネットによる情報の流通について学習する。 ・インターネットを用いた、集団による文化の創造と個人の発信について学習する。 ・インターネットの匿名性と記録性について学習する。	ワークシート 実習課題
			10 情報技術の進歩と役割	・電子商取引やVR技術などの新しい情報技術について学習する。	ワークシート 実習課題
			11 情報技術が社会に与える光と影[p. 22] 12 コミュニケーションとメディア[p. 32]	・人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化について理解する。 ・情報化による健康への影響やデジタルデバイドなどの問題について学習する。 ・メディアとコミュニケーションの変遷について学習する。	
	9		13 情報のデジタル化[p. 34] 14 数値の表現[p. 36] (問)2進法，10進法，16進法の変換 15 2進法の計算[p. 38] 16 文字のデジタル表現[p. 40]	・デジタルデータとは何か学習する。 ・ビットによるコンピュータの情報の扱いを理解する。 ・2進法，10進法，16進法について学習する。 ・2進法の計算と数の表現について学習する。 ・文字のデジタル表現について学習する。 ・文字コードの種類について学習する。	ワークシート 実習課題
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	3章 プログラミング	27 コンピュータの構成 [p. 70] 28 ソフトウェア [p. 72] 29 処理の仕組み [p. 74]	・コンピュータの基本構成を理解する。 ・ソフトウェアの種類について学習する ・コンピュータの処理とデータの流れについて学習する。 ・プログラムの動作の仕組みについて学習する。 ・アルゴリズムの必要性を理解する。 ・アルゴリズムの表現方法について学習する。	ワークシート 実習課題
			31 アルゴリズムの表現 [p. 78] 32 アルゴリズムの効率性 [p. 80]	・同じ問題に対して異なるアルゴリズムの解決方法があることを理解する。	ワークシート 実習課題
	11		33 プログラムの仕組み [p. 82] 34 プログラミング入門 [p. 84] 35 プログラムの応用 [p. 86]	・プログラムとは何かを理解する。 ・プログラムのデータ構造について学習する。 ・プログラムの作り方を学習する。 ・プログラムで制御構造を組み合わせることを学習する。 ・プログラムでの関数の利用について学習する。	ワークシート 実習課題
	12		40 情報通信ネットワーク [p. 104]	・情報通信ネットワークとは何か学習する。 ・インターネットの接続方法について学習する。 ・小規模LANの構築方法を学習する。 ・ネットワークに接続した場合の機器の機能拡張について考える。 ・家庭内LANを構築する。	ワークシート 実習課題
	1		41 デジタル通信の仕組み [p. 106] 42 インターネットの利用 [p. 108]	・プロトコルと、その1つとしてTCP/IPについて学習する。 ・IPアドレスについて学習する。 ・サーバの役割について学習する。	ワークシート 実習課題
	2		44 情報システム [p. 112] 45 さまざまな情報システム [p. 114] (問)身の回りの端末の情報システム 43 安全安心を守る仕組み [p. 110] 46 情報システムの信頼性 [p. 116]	・情報システムのサービスや形態について学習する。 ・電子マネーについて学習する。 ・身の回りの端末の情報システムについて考える。 ・オープンなシステム、オープンな情報について学習する。 ・ファイアウォールについて学習する。 ・暗号化通信について学習する。 ・情報システムの信頼性について学習する。	ワークシート 実習課題
	3				ワークシート 実習課題
			期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	情報と情報技術についての知識と技能，情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けるとともに，情報社会と人との関わりについては，情報に関する法規や制度及びマナー，個人が果たす役割や責任等について，情報と情報技術の理解と併せて身に付ける。
思考・判断・表現	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ，さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え，複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力を養うとともに，問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで，情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	情報と情報技術を適切に活用することを通して，法規や制度及びマナーを守ろうとする態度，情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い，これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を養う。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い，定期考査を含めて総合的に評価します。
--

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

授業は原則として第1コンピュータ教室を利用して行います。実習を伴う授業なので，欠席をしないようにしましょう。また，課題や提出物についても，進度が遅れた場合は昼休みや放課後にコンピュータ教室を使って確認・終了させるなど，積極的に臨む態度が必要です
--

令和7年度 理数「理数探究」シラバス

単位数	1 単位	学科・学年・学級	理数科・1 年次・H組
教科書	理数探究基礎（数研出版）	副教材等	なし

1 学習の到達目標

様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けるようにする。

(2)多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。

(3)様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	ガイダンス		・教科目標を明確に理解させる。	出席状況，学習に取り組む意欲・態度，レポート等提出物の評価，発表の内容等の評価を総合的に判断し，学年末に評価する。
	5	実験講座第Ⅰ-① 実験講座第Ⅰ-② 実験講座第Ⅰ-③	・基本的な実験を通して，実験方法や技術を習得する。 ・科学的，数学的に考察し，処理する能力を育てる。	・科目目標を明確に理解させる。 ・科学実験に関する基礎的な事柄を理解させる。 ・実験講座を3回行い，数学，物理，化学，生物，地学分野における基礎的，基本的な実験を通して，科学的，数学的に考察し，処理する能力を育てる。 ※班ごとに5つの分野の学習が出来るようにする。 ※観察，実験，実習を通して数的処理や科学実験の基礎的な事柄を理解できるようにする。	
	6	実験講座第Ⅱ-① 実験講座第Ⅱ-② 実験講座第Ⅱ-③ 実験講座第Ⅲ-①			
	7	実験講座第Ⅲ-② 実験講座第Ⅲ-③			
	9	プレゼンテーション準備講座			
			・情報収集，実験の段取り(安全管理を含む)の徹底	・科学文献等を自ら調べまとめたものを発表することでプレゼンテーション能力を育てる。 ・報告書のまとめ方，プレゼンテーションの方法を理解出来るようにする。	
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	プレゼンテーション プレゼンテーション事後指導	・情報収集，実験の段取り(安全管理を含む)の徹底	・科学文献等を自ら調べまとめたものを発表することでプレゼンテーション能力を育てる。 ・報告書のまとめ方，プレゼンテーションの方法を理解出来るようにする。	出席状況，学習に取り組む意欲・態度，レポート等提出物の評価，発表の内容等の評価を総合的に判断し，学年末に評価する。
	11	実験講座第Ⅳ-① 実験講座第Ⅳ-② 実験講座第Ⅳ-③ 実験講座第Ⅴ-① 実験講座第Ⅴ-② 実験講座第Ⅴ-③	・基本的な実験を通して，実験方法や技術を習得する。 ・科学的，数学的に考察し，処理する能力を育てる。	・科目目標を明確に理解させる。 ・科学実験に関する基礎的な事柄を理解させる。 ・実験講座を3回行い，数学，物理，化学，生物，地学分野における基礎的，基本的な実験を通して，科学的，数学的に考察し，処理する能力を育てる。 ※班ごとに5つの分野の学習が出来るようにする。 ※観察，実験，実習を通して数的処理や科学実験の基礎的な事柄を理解できるようにする。 ・次年度の理数探究への接続を図り，課題研究に取り組ませる。	
	12				
	1	課題研究準備講座 分野別応用講座			
	2	リサーチプラン作成講座			
	3		・自身の希望研究を文章化し，次年度の理数探究への接続を図る。		

3 評価の観点

知識・技能	自然や科学技術に関して観察、実験などの探究的な活動を通じて習得した探究の方法を用いる。研究の実施や報告書の作成を通して、研究において独自性が重要であることに気付き、創造的な思考力を培おうとしている。
思考・判断・表現	仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、推論など探究の方法にしたがって研究を進めている。
主体的に学習に取り組む態度	探究の方法を用いて研究を行う過程で、設定した課題を科学的に解決する方法を見いだす能力と態度を培おうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

この授業は広い視野に立った物事の理解と研究計画の伸長を目標としています。試験はありませんが、その分、課題(報告書作成・提出を含む)やプレゼンテーションに取り組む姿勢が重視されます。多様な対象への関心を高め、意欲的かつ積極的に取り組んでください。
--

*学習の計画及び評価方法等に変更が生じる場合は、口頭もしくは文書で案内します。

令和7年度 数学科 「理数数学Ⅰ」 シラバス

単位数	6単位	学科・学年・学級	理数科 1年 H組
教科書	数学Ⅰ（数研出版） 数学A（数研出版） 数学Ⅱ（数研出版）	副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅰ＋A チャート式 解法と演習 数学Ⅱ＋B

1 学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	数学Ⅰ 第1節 式の計算	1 多項式 2 多項式の加法と減法 および乗法 3 因数分解 4 実数 5 根号を含む式の計算 6 1次不等式 7 1次不等式の利用	・基本的な計算を行う。 ・因数分解の公式を利用する。また、式の一部を1つの文字のようにみなしたり、1つの文字について整理するなど、見通しを持って能率よく計算を行う。 ・自然数、整数、有理数、無理数の意味や実数について理解する。また、絶対値の定義をもとに、絶対値記号を含む式の計算を行う。 ・不等式の意味を理解し、数量の間の大小関係を不等式で表す。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知）
	5	第2節 実数 第3節 1次不等式 第2章 集合と論証	1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明	・集合と要素、集合の表し方、部分集合について学び、図表示などを用いて集合の包含関係、共通部分と和集合、空集合について理解する。また、集合に関する記号の意味を理解し、適切に使う。 ・命題の逆、裏、対偶について理解し、対偶を利用した証明方法や背理法による証明法を学び、論理的な思考力を身に付ける。	・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
		数学A 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 円順列・重複順列 5 組み合わせ 中間考査	・集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解する。 ・事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察する。 ・具体的な事象を基に順列及び組み合わせの総数を求める。	
	6	数学A 第2節 確率	6 事象と確率 7 確率の基本性質 8 独立な試行の確率 9 反復試行の確率 10 条件付き確率 11 期待値	・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求める。 ・確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察する。 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求める。 ・独立な思考の意味を理解し、独立な試行の確率を求める。 ・条件付き確率の意味を理解し、条件付き確率を求める。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断し、期待値を意志決定などに活用する。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知）
	7	数学Ⅰ 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 3 2次関数の最大と最小 4 2次関数の決定	・2次関数の最大・最小について理解を深め、定義域に応じて、最大値や最小値を求める。また、具体的な問題の解決に活用する。 ・因数分解や解の公式を用いて、2次方程式の解を求める。 ・2次方程式の実数解の個数と判別式の符号との関係を理解する。 ・2次関数のグラフとx軸の共有点と判別式の符号との関係を理解する。 ・2次関数のグラフを利用し、2次不等式の解を求める。また、グラフを活用することのよさを認識する。	・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）
	9	第2節 2次方程式と2次不等式	5 2次方程式 6 グラフと2次方程式 7 グラフと2次不等式 期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	数学Ⅰ 第4章 図形と計量 第1節 三角比	1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用	・正弦、余弦、正接の意味を理解し30°、45°、60°の正弦、余弦、正接の値を求め、活用する。また、三角比の相互関係について理解する。 ・三角形の辺と角の間の基本的な関係として正弦定理を理解し、活用する。 ・条件に応じて正弦定理や余弦定理を活用し、三角形の面積を求める。 ・三角比を空間図形の計量に活用する。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知）
	11	第2節 三角形への応用	7 三角形の面積 8 空間図形への応用		
	12	数学A 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形	1 三角形の辺の比 2 三角形の外心、内心、重心 3 チェバの定理、メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 方べきの定理 7 2つの円の位置関係 8 作図 9 直線と平面 10 多面体 中間考査		
	1	数学Ⅰ 第5章 データの分析	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位範囲 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間の関係 6 仮説検定の考え方	・データの分布の特徴を表す値として、平均値をもとにした分散、標準偏差を理解し、それを求める。 ・2つの変量の組の値を散布図に表すことによって、2つの変量の相関関係を調べる。 ・仮説検定の考え方について学び、具体的な事象を仮説検定の考え方を用いて考察する。	・授業中の態度（主） ・質問に対する応答（主・思・知） ・授業中の演習（主・思・知） ・小テスト（主・思・知） ・課題（主・思・知）
	2				
	3	数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	1 指数の拡張 2 指数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数		
			期末考査		・定期考査（主・思・知） ・提出物（主）

3 評価の観点

知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を系統的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
思考・判断・表現	事象を数学的に捉え、論理的・統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、事象を数学的に探究しようとする態度を身に付ける。

4 評価の方法

3に示した3つの観点から評価した前期の成績及び後期の成績を総合し、年間の学習成績とする。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

数学は単純なことの積み上げです。あるステップから次のステップに上がることはそれほど難しくありません。しかし、それらが累々と積み上がって高度な体系になります。ですから、ある段階でのつまずきや知識の欠落が、次のステップに進む障害になるのです。毎日の予習・復習、特に復習が重要です。また、「わかった」という気分だけでは、実際に問題を前にしたとき、それが解けないことが多いです。理解すべき内容を的確に自力で表現することができて初めて理解できたと言えます。普段の学習では、理解したと思えたらその内容を書いてみることを励行してください。

令和7年度 理数 「理数化学」 シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	理数科 1年 H組
教科書	実教出版 化学基礎 academia 実教出版 化学 academia	副教材等	実教出版 エクセル 化学 総合版 実教出版 サイエンスビュー 化学総合資料

1 学習の到達目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	(化学基礎) 序章 化学と人間生活			実験に取り組む姿勢 実験レポート 問題演習(課題)等
		第Ⅰ章 物質の構成			授業に臨む様子や、 発表の様子により思考・判断力を確認
		第1節 物質の探究	①物質の分離と性質 ②物質と元素 ③物質の三態と熱運動	物質は原子から成り立っていることが突き止められた過程を知るとともに、元素記号での表し方を身に付けます。また、物質の分類方法に純物質と混合物という観点からの方法があること、純物質はさらに単体と化合物に分類されることを知るとともに物質の分離や精製方法を理解します。	
	5	第2節 物質の構成粒子	①原子の構造 ②イオンの生成 ②周期表	物質を構成する基礎的な粒子である原子とそれらから生じる分子やイオンについて、その構造や表し方、元素のまとめ方やそれらの相互関係を理解します。また、同位体や原子核の崩壊も学習します。	
		第Ⅱ章 物質と化学結合			
		第1節 イオン結合	①イオン結合とイオン結晶	粒子間相互の結合のしくみとそれらの結合からできている物質の性質を理解します。 イオン結合が静電気的な引力によることを理解し、イオン結合でできた物質の性質を学習します。	
		第2節 共有結合と分子間力	①共有結合 ②分子間力 ③共有結合からなる物質	共有結合を電子配置と関連付けて理解し、共有結合でできた物質の性質を学習します。	
			中間考査		
	6	第3節 金属結合	①金属結合	金属結合における自由電子の役割を理解し、金属結晶の性質や金属の利用について学習します。	実験に取り組む姿勢 実験レポート 問題演習(課題)等
	7	第4節 化学結合と物質	①物質の分類	結合の違いによって、物質の性質に特徴があることを理解し、物質の分類の仕方を学習します。	授業に臨む様子や、 発表の様子により思考・判断力を確認
		第Ⅲ章 物質の変化			
	9	第1節 物質質量と化学反応式	①原子量と分子量・式量 ②物質質量 ③溶液の濃度 ④化学反応式	物質の質量と物質を構成する原子、分子、イオンなどの質量や数との関係、気体については体積との関係についても学び、化学の学習において重要な物質質量の考え方を溶液の濃度まで発展させて理解します。 化学変化を化学反応式で表すことを学び、それを元にしての量的な関係を理解します。	
		第2節 酸と塩基	①酸と塩基 ②水素イオン濃度とpH	酸・塩基の定義や酸性・塩基性について、電離式を参考にしてその本質が何であることを考え、酸性・塩基性の度合いの表し方を理解します。	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2節 酸と塩基	③中和反応と塩の生成 ④中和滴定	酸と塩基が中和するときの量的関係を理解します。さらに、塩の溶液についても理解を深めます。	実験に取り組む姿勢 実験レポート 問題演習(課題)等
	11	第3節 酸化還元反応	①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤 ③酸化還元反応の 起こりやすさ ④身のまわりの 酸化還元反応	酸化・還元の定義を酸素の授受、水素の授受、電子の授受、酸化数の増減などで考え、化学変化の中で酸化還元反応を区別するとともに、酸化剤や還元剤についても理解します。また、代表的な金属の精錬についても理解します。	授業に臨む様子や、 発表の様子により思考・判断力を確認
	12		中間考査		
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	(化学) 第2章 物質の変化と平衡 第2節 化学反応と電気エネルギー	①電池 ②電気分解	電池や電気分解での化学反応は、酸化還元反応であることを理解し、ファラデーの法則を通して電気分解による量的な関係も理解します。	実験に取り組む姿勢 実験レポート 問題演習(課題)等 授業に臨む様子や、 発表の様子により思考・判断力を確認
	2				
	3		期末考査		

3 評価の観点

知識・技能	- 物質とその変化について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 - 物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	- 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察や実験などを行うことができる。 - 実験結果を分析して解釈したり、班で考察を発表するするなど、科学的に探究している。
主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質の変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。

4 評価の方法

下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。 (1)授業への取組 授業に対する姿勢、学習態度、化学への関心等で判断する。 (2)ノート等の記載内容 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができていかなどを評価する。 (3)観察・実験等 観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。 (4)教科書・問題集の問題 各問題への取組、取り組んだ内容から評価する。 (5)中間・定期考査 学習内容に合わせて問題を出題する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

- 実験や観察には関心、意欲をもって積極的に取り組み、実験の技能を身に付けましょう。 - 実験は、注意事項を良く聞き、指示に従って事故のないように十分注意して下さい。 - 予習や復習として問題集を積極的に解いて学習内容の定着を図ると良いでしょう。(演習の時間を授業中ほとんど取れません。各自でしっかりと学習して下さい。) - 授業の進度は中学校のときよりも速いと感じるはずです。予習、復習をしっかり行うようにして下さい。

令和7年度 理数 「 生物概論 」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	理数科 1年 H組
教科書	高等学校生物（第一学習社）	副教材等	ニューステージ生物図表（浜島書店） セミナー生物（第一学習社）

1 学習の到達目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	第4章 植生と遷移	①植生と環境の関わり	・植生と環境は密接な関係にあることに気づく。 ・光の強さと光合成速度の関係を、グラフを通じて理解する。	実験等レポート 授業内提出物 前期中間考査
			②遷移のしくみ	・植生は不変ではなく、遷移していることを理解する。	
	5	第5章 生態系とその保全	①生態系の成り立ち	・地球上には、陸上以外にもさまざまな生態系がみられることを理解する。	
		1. 生態系と生物の多様性	②生態系における生物どうしの関わり	・生物は、食物連鎖（食物網）によってつながっていることを理解する。	
		2. 生態系のバランスと保全	①生態系の変動と安定性	・生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解する。	
			②人間活動による生態系への影響とその対策	・人間活動が生態系にさまざまな影響を与えていることを理解する。	
			中間考査		
	6	第1章 生物の特徴	①生物の多様性と共通性	・地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解する。 ・すべての生物のからだは細胞からなることを見だし、生物が共通にもつ特徴を理解する。	実験等レポート 授業内提出物 前期期末考査
			②生物の共通性の由来	・原核細胞と真核細胞でそれぞれみられる特徴を理解する。また、細胞小器官の機能の概要を理解する。	
	7	2. 生物とエネルギー	①生物とエネルギー	・生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。	
			②代謝とATP	・代謝には同化と異化があること、また、エネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解する。	
	9		③代謝と酵素	・呼吸と光合成のしくみ、エネルギーの流れについて理解する。 ・酵素の基本的な特徴について理解する。	
			期末考査		

	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第2章 遺伝子とその働	①遺伝情報とDNA	・DNAの基本的な構造を理解する。	実験等レポート 授業内提出物 後期中間考査
		1. 遺伝子の本体と構造	②DNAの複製と分配	・塩基の相補性にもとづいてDNAが複製されていることに気づき、半保存的複製を理解する。 ・細胞の分裂の各過程で起こる現象を理解する。	
	11	2. 遺伝情報とタンパク質	①遺伝情報とタンパク質	・タンパク質は、多数のアミノ酸が鎖状につながってできたものであることを理解する。	
			②転写と翻訳	・DNAの塩基配列がmRNAの塩基配列に写し取られ、アミノ酸配列に置き換えられるという流れを理解する。	
			③遺伝子とゲノム	・全遺伝子が常に発現しているのではなく、細胞によって発現する遺伝子が異なっていることを理解する。	実験等レポート 授業内提出物 後期期末考査
	12	第3章 ヒトのからだの調節	中間考査		
		1. 情報の伝達と体内環境の維持	①恒常性と神経系	・恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 ・交感神経と副交感神経が拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。	
			②恒常性と内分泌系	・内分泌系による体内環境の調節の特徴について理解する。	
			③体内環境を調節するしくみ	・血糖濃度と自律神経系および内分泌系の関わりについて気づき、血糖濃度調節のしくみについて理解する。	
	1	2. 免疫	①生体防御	・免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解する。	
			②自然免疫	・自然免疫のしくみを理解する。	
	2		③獲得免疫	・獲得免疫による病原体排除の流れを理解する。 ・二次応答や拒絶反応が起こるしくみを理解する。	
			④自然免疫と獲得免疫の特徴	・自然免疫と獲得免疫の特徴を理解し、お互いに活性化し合って病原体を排除することを理解する。	
	3		⑤免疫と生活	・アレルギーや自己免疫疾患、エイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。	
			学年末考査		

3 評価の観点

知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

授業内提出物、実験等レポートにより主体的に取り組む態度、知識・技能、思考・判断・表現を評価する。どの観点を評価するかは、授業内提出物や実験等レポートの種類による。 定期考査により知識・技能、思考・判断・表現を評価する。 評価材料をもとに観点別に評価を行い、それらを総合的に判断して最終評価を行う。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身に付けるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など）

基礎生物で扱う多くのテーマは私たちの生活の中で見られる事柄と関連しており、さらに私たち自身が生命活動を行うにあたり、身体の中でどのようなことが起きているのかなど、分子（DNA）レベルから学んでいきます。 授業を通して、あなたたち自身のこれまでの経験や知識を関連付けながら、より専門的な理解を深めて専門知識を定着させていきましょう。

単位数	2単位	学科・学年・学級	理数科・1年・H組
教科書	啓林館 高等学校 地学基礎	副教材等	センサー地学基礎3rdEdition・スクエア最新図説地学

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら、宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。また、地球や地球を取り巻く環境に対して目的意識をもって観察・実験を行い、地学的に探究する能力と態度を育てる。地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、地学的な見方や考え方を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	1節 プレートテクトニクスと地球の活動	・地震の発生機構	①太陽系の他の惑星と比較しながら、地球の特徴を調べ、地球の誕生について学ぶ。	・授業態度
		2節 地震	・火山噴出物	②地球の大きさに対するスケールを理解し、その歴史をふまえ学ぶ。	・発問評価
		3節 火山活動と火成岩の形成		③固体地球の層構造や構成物質の化学組成を学び、次項のプレートにつなげる。	・実習レポート提出
		5 第1部 固体地球とその活動		④プレートの運動について学ぶ。火山活動と地震活動が一つの仮説にまとめられることについてふれる。	・定期考査
		1章 地球	・エラトステネスの測距法	⑤プレートの沈み込み地帯で起こる地震現象を理解する。それに伴う変動地形と変成作用まで言及する。	
		1節 地球の外観		⑥マグマの性質と火山の噴火形式と火山地形の関係を理解する。	
		2節 地球の内部構造	・地球内部の層構造		
		2章 活動する地球	・plate tectonics		
			中間考査		
	6	第3部 大気と海洋	・太陽定数と地球放射	①大気圏の構造とともに、太陽の放射エネルギーによる地球の熱収支について理解する。	・授業態度
		1章 大気の構造		②太陽の放射エネルギーが大気の運動を生じさせ、気象の変化を起こしたり、熱収支のバランスを保ったりすることを理解する。	・発問評価
		1節 大気圏		③海洋も同じように熱収支のバランスにとって重要であることを理解する。	・実習レポート提出
		2節 水と気象		④日本で見られる季節の気象と偏西風波動との相関を理解する。	・定期考査
	7	2章 太陽放射と大気・海水の運動	・海流と気候変動との関係		
		1節 地球のエネルギー収支			
		2節 大気の大循環			
		3節 海水の循環			
	9	3章 日本の天気			
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第3部 移り変わる地球		①宇宙や太陽系の成り立ちについて、基本的な歴史を理解できる。	・授業態度
		1章 地球の誕生	・宇宙・太陽系の成り立ち	①宇宙や太陽系の成り立ちについて、基本的な原理を説明できる。	・発問評価
	11	2章 地球と生命の進化	・示準化石と示相化石 ・地球の自然史	③地球と生命の歴史をひもとき、地球と生命の関係の理解を深める。 ④生物界や地球環境の変遷と地質時代の区分や時間的なスケールを理解させる。	・実習レポート提出
	12		中間考査		・定期考査
	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	1	3章 地球史の読み方	・上下判定に寄与する堆積構造	①太陽エネルギーと重力による位置エネルギーがどのように地形の変化や堆積作用にかかわっているかを学ぶ。	・授業態度
	2	第4部 自然との共生		②地層の重なりや変形の様子を観察する方法とともに、それがどのようなしくみでできあがったかを学ぶ。	・発問評価
	3		期末考査		・実習レポート提出 ・定期考査

3 評価の観点

知識・技能	地球や地球を取り巻く環境について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・事象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	実習の振り返りや発展的な内容の問いかけに粘り強く考え、根拠を持って自らの考えを示すことができる。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

視聴覚教材や情報機器の活用で教科書の内容を積極的に補完し、より豊かなイメージをもつことができるようにします。必要な事柄を要領良く記録してください。学習の計画及び評価方法等に変更が生じる場合は、口頭もしくは文書で案内します。

令和7年度 理数「Field Study」シラバス

単位数	1 単位	学科・学年・学級	理数科・1 年次・H組
教科書	配布プリントによるテキスト	副教材等	なし

1 学習の到達目標

様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けるようにする。
- (2)多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。
- (3)様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	オリエンテーション	・野外実習の心得（安全確保）	・伊豆大島の自然(地形・地質・植生など)や歴史について理解させる。 ※ビデオによる学習や実験などの学習を通して、事前に必要な知識を持たせる。 ※安全を確保するための意識の持ち方と装備品について、詳細に説明する。 ※調査・観察で気づきや、感じたことなどをまれなく記録させる	野外実習の取組み（調査に取り組む姿勢・質問・ミーティングでの発表など）およびワークシート・レポート等の提出で、学年末にまとめて評価する。
	5	伊豆大島のなりたち (1)地形と地質 (2)火山活動 (3)植生 (4)歴史	・plate tectonicsと火山列 ・大島の歴史的背景 ・火山島の植生と遷移		
		伊豆大島の野外実習 (5月15日～17日) (1)現地調査・観察 (2)野外実習のまとめ	・火山噴出物 ・地層の見方 ・植生遷移における考察	・実習を通して調査・観察したことをもとに、伊豆大島の自然や歴史について理解を深めさせる。	
	6	伊豆大島事後指導 (1)レポートの作成	・記録の解析 ・考察 ・発表準備 ・発表	・実習で調査・観察したこと、それに対する考察を、きちんとレポートにまとめさせる。 ※自分が経験したことを、如何にわかりやすく人に伝えられるかに重点を置いて、レポートを書かせる。	
	7 8 9	(2)ポスターなど発表資料作成 (3)発表		・レポートをもとに、伊豆大島の自然と科学的フィールド調査の方法、考察の手法を振り返る。また、レポート作成のポイントについても再確認する。 ・研修の成果をまとめ、研修内容を再度理解させる。パワーポイントなどのソフトを用いてポスター作製ができるように指導する。	
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期					

3 評価の観点

知識・技能	科学的な事物・現象に関する観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物，現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	科学的な事物・現象の中に問題を見だし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	科学的な事物・現象に関心や探究心をもち，主体的に探究しようとするとともに，科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い，総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

野外実習を通して，直接自然から自分の五感を駆使して情報（データ）を収集し，その情報を整理し，既知の事象や法則に当てはめて解析・解釈することを目的とします。サイエンスの根幹である「類推力」を伸長すべく，意欲にもとづいて取り組んでください。事後にレポート作成がありますので，まとめまでしっかり行っておくとよいです。

*学習の計画及び評価方法等に変更が生じる場合は，口頭もしくは文書で案内します。

令和7年度 スーパーサイエンス 「SS-Science Camp I」 シラバス

単位数	1 単位	学科・学年・学級	普通科・理数科・1 年次・A 組～H 組（選択生徒）
教科書	配付プリントによるテキスト	副教材等	ワークシート、各種資料等

1 学習の到達目標

科学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	6	事前学習①	・化学分析の原理	・化学分野・生物分野で基本事項整理を行い、当日の学習効果の向上をはかる。	出席状況、学習に取り組む意欲・態度、レポート等提出物の評価、発表の内容等の評価を総合的に判断し、学年末に評価する。
	7	事前学習②	・日本の宇宙開発 ・加速器の原理と加速器実験の意義	・物理分野・地学分野で基本事項整理を行い、当日の学習効果の向上をはかる。	
	8	第1日目 大学研究室における化学実験講座 班別発表会準備	・大学の実験設備を用いての化学実験	・大学教官および大学院生より教授いただくことにより、科学への興味・関心の伸長をはかる。 ・研修内容を即時まとめることの意義を理解する。 ・研修内容をまとめる活動を通して、コミュニケーション能力の伸長をはかる。 ※研修内容の理解を深め、プレゼンテーション能力の育成も視野に入れた取り組みを設定する。	
		第2日目 エネルギー・素粒子関連研究施設における研究者講演と施設見学 班別発表会	・加速器の原理 ・素粒子の世界	・我が国最先端の研究施設での研究者の講演、施設体験、実験講座を通して、科学への興味・関心の伸長をはかる。 ・研修内容の理解を深め、プレゼンテーション能力の育成も視野に入れた取組を設定する。	
		第3日目 自然体験型博物館におけるフィールドワーク基礎研修	・岩石学及び植物学的視点での博物館	・野外における研究活動の基礎を、実体験を通して理解させる。 ※生物観察および地学実習をバランスよく配置し、生徒の視野を広げられるよう配慮する。	
	9	事後指導	報告書作成・提出	・報告書作成を通して学習内容を整理する。	

3 評価の観点

知識・技能	科学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
思考・判断・表現	科学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	科学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

野外実習を通して、直接自然から自分の五感を駆使して情報（データ）を収集し、その情報を整理し、既知の事象や法則に当てはめて解析・解釈することを目的とします。サイエンスの根幹である「類推力」を伸長すべく、意欲にもとづいて取り組んでください。事後にレポート作成がありますので、まとめまでしっかり行っておくとよいです。

令和7年度 スーパーサイエンス「Crossover Science I」シラバス

単位数	1 単位	学科・学年・学級	理数科・1 年次・H組
教科書	配布プリントによるテキスト	副教材等	なし

1 学習の到達目標

様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	Field Study事前指導	・plate tectonicsと火山列 ・火山島の植生と遷移 ・大島の歴史的背景	伊豆大島の自然（地形・地質・植生など）や歴史について理解させる。学際的な視点を持たせるとともに、研修に対する関心を高める。	活動への取組み（姿勢・質問・ミーティングでの発表など）およびワークシート・レポート等の提出で、学年末にまとめて評価する。
	5	(1)地学 (2)生物 (3)地歴			
	6	Field Study事後指導	・Field Studyまとめ ・発表用資料の作り方	研修の成果をまとめ、研修内容を再度理解させる。パワーポイントなどのソフトを用いてポスター作製ができるように指導する。 →ポスターを提出する。	
	7				
後期	9	Field Study報告会	・発表方法	研修の成果をまとめ、発表を行う。	
		千葉大高校生理科研究発表会に向けて 千葉大高校生理科研究発表会	・課題研究に向けてテーマ等を考える ・ポスター発表のしかた	同年代の生徒の発表を聞き、自身の課題研究の手がかりとする。様々な発表を参考にして、自身のテーマの方向性を絞らせていく。他者の発表から、良い点を見つけて指摘できるような前向きな態度を養う。	
	10	低温科学講座	超電導実験	超電導など低温世界で起こる物理現象を中心に、実験を交えて理解させる。	
		(1)事前指導 (2)当日の講座			
		課題研究テーマ設定講座	研究テーマの設定	課題研究のテーマをさらに絞っていく。同時にグループ分けを行っていく。	活動への取組み（姿勢・質問・ミーティングでの発表など）およびワークシート・レポート等の提出で、学年末にまとめて評価する。
	11	CCSS	・課題研究テーマを考える ・ポスター発表のしかた	自身が実際に研究を行うような段階で、他者の研究発表を聞くことで、自身の研究テーマについて考え直す。 →報告書を提出させる。	
	12	(1)事前指導 (2)発表会			
	1	SS-Field Study報告会	・他者の発表を聞く姿勢 ・2年生に向けて	来年の研修に向け事前知識を得させる。 →報告書を提出させる	
	2				
	3	千葉県高校生課題研究発表会	・発表の仕方	自身の研究の一助とさせる。	

3 評価の観点

知識・技能	科学的な事物・現象に関する観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物，現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	科学的な事物・現象の中に問題を見だし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	科学的な事物・現象に関心や探究心をもち，主体的に探究しようとするとともに，科学的態度を身に付けている。

4 評価の方法

知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い，総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

野外実習を通して，直接自然から自分の五感を駆使して情報（データ）を収集し，その情報を整理し，既知の事象や法則に当てはめて解析・解釈することを目的とします。サイエンスの根幹である「類推力」を伸長すべく，意欲にもとづいて取り組んでください。事後にレポート作成がありますので，まとめまでしっかり行っておくとよいです。

*学習の計画及び評価方法等に変更が生じる場合は，口頭もしくは文書で案内します。